

台北

冬季号
2017

Vol. 10

TAIPEI

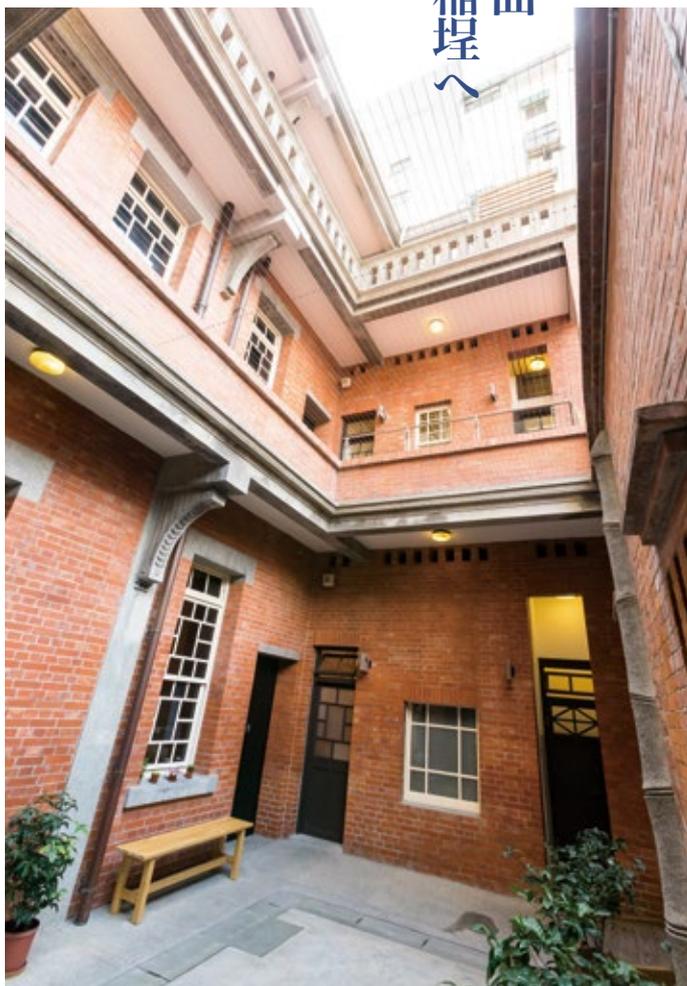


台北で見つける
台湾人奮闘の道—延平北路
名士から庶民まで包み込む
暮らしの場

受け継いだ音楽のDNA
魂込めるバイオリン作りの道



古き街角の青春行進曲
にぎわいの時代の大稲埕へ



TAIPEI

本誌は以下の場所で無料で入手できます。

台北市政府観光傳播局／
台北市觀光傳播局
Department of Information and
Tourism, Taipei City Government
(02)2720-8889 1999 内線 7564 台北市市
府路 1 号 4 階

台湾桃園國際空港第一ターミナル
到着ロビー
サービスカウンター
Tourist Service Center at Arrival Hall,
Taiwan Taoyuan International Airport
- Terminal I
(03)398-2194 桃園市航站南路 9 号

台湾桃園國際空港第二ターミナル
出国ロビー
サービスカウンター
Tourist Service Center at Departure Hall,
Taiwan Taoyuan International Airport
- Terminal II
(03)398-3341 桃園市航站南路 9 号

美國在台協會／アメリカ在台湾協会
American Institute in Taiwan
(02)2162-2000
台北市信義路三段 134 巷 7 号

遠企購物中心／遠企ショッピングセンター
Taipei Metro the Mall
(02)2378-6666 内線 6580
台北市敦化南路二段 203 号

國語日報語文中心／国語日報語学センター
Mandarin Daily News (Language Center)
(02)2341-8821 台北市福州街 2 号

臺北市立美術館／台北市立美術館
Taipei Fine Arts Museum
(02)2595-7656
台北市中山北路三段 181 号

聖多福天主教堂／
セントクリストファーカトリック教会
St. Christopher Catholic Church
(02)2594-7914
台北市中山北路三段 51 号

士林區公所／士林区役所
Shilin District Office
(02)2882-6200 内線 8725
台北市中正路 439 号 8 階

台北士林劍潭活動中心／
台北士林劍潭市民センター
Shilin Chientan Overseas Youth Activity
Center
(02)2885-2151 台北市中山北路四段 16 号

南港軟體工業園區／南港ソフトウェアパーク
Nangang Software Park
(02)2655-3093 内線 124
台北市三重路 19-10 号 2 階

台北美國學校／台北アメリカンスクール
Taipei American School
(02)2873-9900 台北市中山北路六段 800 号

國立中正紀念堂／国立中正記念堂
National Chiang Kai-shek Memorial Hall
(02)2343-1100 台北市中山南路 21 号

台北當代藝術館／MOCA Taipei
Museum of Contemporary Art Taipei
(02)2552-3720 台北市長安西路 39 号

市長官邸藝文沙龍／市長官邸アートサロン
Mayor's Residence Arts Salon
(02)2396-9398 台北市徐州路 46 号

台北國際藝術村／台北国際芸術村
Taipei Artist Village
(02)3393-7377 台北市北平東路 7 号

台北二二八紀念館／台北二二八記念館
Taipei 228 Memorial Museum
(02)2389-7228 台北市凱達格蘭大道 3 号

交通部觀光局旅遊服務中心／
交通部觀光局トラベルサービスセンター
Travel Service Center, Tourism Bureau,
M.O.I.C
(02)2717-3737 台北市敦化北路 240 号

西門紅樓／西門紅樓
The Red House
(02)2311-9380 台北市成都路 10 号

光點台北／光点台北
SPOT-Taipei Film House
(02)2778-2991 台北市中山北路二段 18 号

台北市政府市民服務組／
台北市役所市民サービスカウンター
The public service group of Taipei City
Government
(02)2720-8889 / 1999 内線 1000
台北市市府路 1 号

北投溫泉博物館／北投温泉博物館
Beitou Hot Spring Museum
(02)2893-9981 台北市中山路 2 号

士林官邸／士林官邸
Shilin Official Residence
(02)2883-6340 台北市福林路 60 号

台北市孔廟／台北市孔子廟
Taipei Confucius Temple
(02)2592-3924 台北市大龍街 275 号

松山文創園區／
松山文化クリエイティブパーク
Songsshan Cultural and Creative Park
(02)2765-1388 台北市光復南路 133 号

華山 1914 文化創意產業園區／
華山 1914 文化クリエイティブパーク
Huashan 1914 Creative Park
(02)2358-1914 台北市八德路一段 1 号

國立臺灣博物館／国立台湾博物館
National Taiwan Museum
(02)2382-2566 台北市襄陽路 2 号

台北市旅遊服務中心／
台北市觀光案内所
Visitor Information Centers in Taipei
(詳細 P. 64 参照)

MRT 各駅
All Stations of MRT Lines

伊是咖啡／IS コーヒー
IS Coffee

摩斯漢堡／モスバーガー
Mos Burger

亞典圖書公司／亜典書店
Art Land Book Co. Ltd.
(02)2784-5166 台北市仁愛路三段 122 号

誠品書店／誠品書店
eslite Bookstore

金石堂書店／金石堂書店
Kingstone Bookstore

楽しき冬の台北 美食を訪ね 風土に触れる

台北には、時を忘れ遊び惚けてしまうような、いろいろな魅力があります。今号ではさまざまな文化と歴史の歩みを一緒に探索してみましょう。

大稻埕は台湾の近代思想の出発点であり、新文化運動のゆりかごでした。美術から音楽、文学、演劇、歌謡、映画まで、ここで近代が芽吹きさまざまな娯楽が開きました。新旧が融合する活力と創造力が、史跡のリノベーションや URS 都市再生前進基地、大同再生計画、コミュニティ・プランナー・スタジオといった市の計画を通じ、人々の居住空間と暮らしにとけ込み、地域全体をつないでいます。民間の活力も勢いがあり、クリエイティビティあふれるショップや実験的スペースなど目移りするほど多様になっています。

冬の風が大地に冷たい空気を運び、食欲が高まる季節となりました。しょっぱいものから甘いものまで、美味しい手作り料理と定番の小皿料理までひとつおとりそろ、建成円環（ロータリー）や延三夜市（ナイトマーケット）では、客家の美食、炒板條（きしめん様の米の麺を炒めたもの）、豚足、油鷄（鶏肉の冷製）、客家小炒（客家風の炒め物）も味わえます。先住民のふるさとの食材、山菜、イノシシ肉、野生のスパイス・馬告（クベバ=ヒッチョウカの実）など海と山の幸も、一度試してみないわけにはいきません。

お腹がいっぱいになったら、台北では各地の文化の果実も収穫できます。捨てられる運命だったピンロウの落葉は先住民文化で生まれ変わり、独特の味わいの日用品となり、ピンロウに全く新しい文化的な意義がもたらされました。台湾ならではの花布は、伝統的な鮮やかな色合いからシンプルですっきりしたバリエーションが生まれ、さらに台湾の自然や暮らしのイメージも組み合わさって、永楽市場を相変わらず魅力的なものにしています。

東洋と西洋の芸術哲学が会うとき、どのような作品が生まれるのでしょうか。ムスリムの画家、張曼麗さんは熟練の技と独自の美感で、静謐ながら華麗な抽象画を生み出しています。大稻埕に生まれた郭雪湖さんは、台湾の美術の発展と人材育成に大きく貢献した人物で、台北市の庁舎で現在、作品のレプリカが数多く展示されています。さらに昔の写真や郭さんが使った画材も展示され、マルチメディアデバイスを通じて、作品に描かれている、夢のような繁栄をみた在りし日の大稻埕に連れて行ってくれます。この冬、台北の豊かな美食と文化が、みなさんの味覚だけでなく心も満たし、胸を熱くしてくれることでしょう。



目次

カバーストーリー

- 04 古き街角の青春行進曲
にぎわいの時代の大稲埕へ



- 06 都市再開発 X クリエイティビティ
台北・下町の魅力を遊ぶ

- 12 台北で見つける
台湾人奮闘の道—延平北路
名士から庶民まで包み込む
暮らしの場

- 18 艋舺へ行こう
伝統とのつながり
未来へ続く道



台北の「今」

- 25 街の片隅の物語
多様な文化と暮らし集まる台北
—演出家・廖若涵さん

- 29 身寄りのない動物に生きる権利を
動物たちの心優しい味方
—黄慶栄さん

台北を遊ぶ

- 31 Beyond Taipei 台北から台湾を見渡す
日台交流協会台北事務所
沼田幹夫代表

- 34 台湾とフィリピンをより近く
マニラ経済文化弁事処
アンヘリト・バナヨ代表

- 37 「拿鞘 Nature」の山が育てた夢
若い世代と先住民文化つなぐ



- 39 生活の味わいと姿を伝える
台湾らしさ満開の「花布」

- 42 受け継いだ音楽のDNA
魂込めるバイオリン作りの道



- 45

真っ赤なお正月へ
ようこそ!



都市美食探検

- 46 客家のおもてなし文化
伝統料理の懐かしい味発見
- 50 先住民の郷土料理
大自然と大らかさを味わう
- 52 永遠のグルメ聖地「建成円環」
庶民の味と助け合いの精神
- 56 味・色・香り全て良しのご当地グルメ
延三夜市の魅力に迫る



芸術を楽しむ

- 58 ムスリムの画家
張曼麗さんの芸術と人生観
- 60 「絵の中の台北
大稻埕の少年・郭雪湖」特別展

TAIPEI 郵政劃撥（郵便振替）での定期購読について：6期
振替口座番号：16630048
振替口座名義：台北市観光伝播局

台湾国内	NT\$180 元	(普通郵便で発送)
香港、マカオ	NT\$540 元	(航空便で発送)
アジア太平洋地域	NT\$660 元	(航空便で発送)
ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ地域	NT\$900 元	(航空便で発送)

TAIPEI

台北
冬季号 2017 Vol. 10

発行人 簡余晏
編集長 謝佩君
副編集長 鄒佳穎
編集 廖唯筑・林冠宇・李筱薇・林姿睿
整合行銷 莊淑媚・李炎欣
翻訳 津村葵・杉山悦子・平松靖史・富永圭太
デザイン・印刷 四點設計有限公司
Tel (02)2321-5942
Fax (02)2321-5944

台北市観光伝播局

住所 台北市市府路1号4階
Tel 1999 (台北市外からは 02-2720-8889)
内線 2029 または 7564
Fax (02)2720-5909
Email qa-juliast@mail.taipei.gov.tw
ISSN 24137774
GPN 2010402343

中華郵政台北雜字
第 1377 號執照登記為雜誌交寄

本号定価 NT\$30 元

本誌に対するご意見、ご希望などがございましたら、是非、E-mail
またはファックスにてお寄せください。



オンライン雑誌：
<https://www.travel.taipei/ja> > マルチメディア > 出版物

台北市観光伝播局

書面による許可なく本誌の全部または
一部を複製・複写することはできません。



本誌は大豆インクを採用しています。

古き街角の 青春行進曲 にぎわいの時代の 大稻埕へ

文__許麗芬

写真__許斌、大稻埕国際芸術祭



(写真/許斌)

TAIPEI

「台北の古い下町は熟年の美女、新しい街並みは30歳の大人の女性のように。新しいところだけ見ても台北の全貌を見たとは言えません」。台北市観光伝播局の簡余晏局長は、台北にはさまざまな姿があり、特にユニークな歴史を刻み、この街の精神や台北の価値観を伝えるスポットには探訪する価値があると言います。「大稻埕」はその一つで、古い下町がどのようにして伝統を出発点として新旧を融合させ、下町の青春行進曲を奏でているのか、足を踏み入れ探索してみるのもいいでしょう。

各地から人々集う 艶っぽさ際立つアートの街

台北、ひいては台湾の歴史において、大稻埕はその足跡を力強く残しています。時の流れに熟成された大稻埕ならではの歴史があちこちに立ちこめます。古くは水の交通の便がよく、港が開かれ、新しいもの好きの気質から、茶葉や樟腦（しょうのう）などの輸出で栄え、国際貿易の一員となりました。外国商社や外国人がここに拠点を構え、台湾の有力企業や「紅頂商人（有力商人）」の発展の地となりました。

注目すべきは、大稻埕が台湾の近代思想の出発点であり文化運動のゆりかごであったことです。近代的な美術、音楽、文学、演劇、歌謡、映画など、多くがここを活動の中心に据えました。新文化運動（五四運動に端を発した近代的な新しい文化を推進する運動）が盛り上がると、あらゆるジャンルの文化や娯楽が大稻埕で花開きました。特に、延平北路を軸としてその周辺にまで、酒楼（居酒屋）、餐館（料理屋）、劇院（劇場・映画館）、書局（出版社・書店）が林立し、ユニークな文化サロンや酒家文化（料亭文化）が生まれ、大稻埕ならではの社会の姿と時代の空気が反映されました。

伝統の復活 下町の活力よ再び

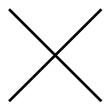
大稻埕も一度はにぎわいが鳴りを潜めていた時期がありましたが、ユニークな歴史の歩みがかつての心意気を持つ多くの人々を引き付けています。台北市文化局によれば、大稻埕は古い下町の復興計画において、重要なポイントをつかんでいて、賞賛に値するそうです。つまり「官民がどちらも投資したい場である」ということです。この地区では、公共部門が史跡の保存や産業、文化といった各種の事業計画を進めるだけでなく、民間の自発的な関わりもあり、クリエイティブなショップや実験的な空間が目移りするほどひしめいています。

まさに大稻埕国際芸術祭の発起人、周奕成さんが言うように「大稻埕が体现する時代というのは、台湾とアジアが近代化した時代です。私たちにとって大稻埕とは、懐かしいレトロな場所というだけでなく、現実の刷新、創造の場でもあります」。大稻埕を訪れば、この土地への想いが触発されるとともに、台北のイメージが再構築され、自分だけの物語を紡ぎ出してくれるかも知れません。📍



大稻埕国際芸術祭では、大稻埕のレトロでアートな雰囲気を再現。（写真／大稻埕国際芸術祭）

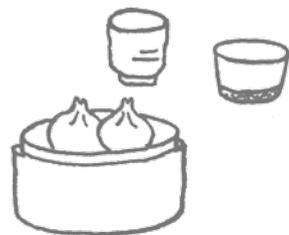
都市再開発



クリエイティブシティ 台北・下町の魅力を遊ぶ

文__許麗苓

写真__許斌、楊智仁、劉德媛、台北市都市更新処



人と文化、身の回りの暮らし全体が展示物となる都市博物館。このようなコンセプトについて、世界各地の大都市が盛り上がっています。博物館はもはや塀に囲まれたものではなく、一本の道、ひとつの地区にまで広がっています。台北市でも、北投、大稻埕、艋舺、城南、中山地下街の5つの地区が塀のない博物館として加わりました。特に大稻埕は豊かな文化・歴史、建築、産業、芸術など多面的な特色を備え、都市再開発とクリエイティブシティを同時に実践する場として、新旧入り混じった独特の魅力で人々が次々と訪れる街となっています。

史跡再利用で「粋な台北」に古い建物のリノベがブーム

ここ数年、台北では下町ルネッサンスとでもいうべき「旧城区復興運動」が盛り上がっていて、大稻埕では多くの史跡の再利用から古い建築の修復、クリエイティブ産業の流入、ドラマ・映画の撮影までが盛んで、さらに行楽客の訪問先としても人気となっています。芸術家の謝里法さんの文学作品『紫色大稻埕』を下敷きにしたドラマは、史跡を再利用したお茶屋さん「新芳春茶行」が主なロケ地となって



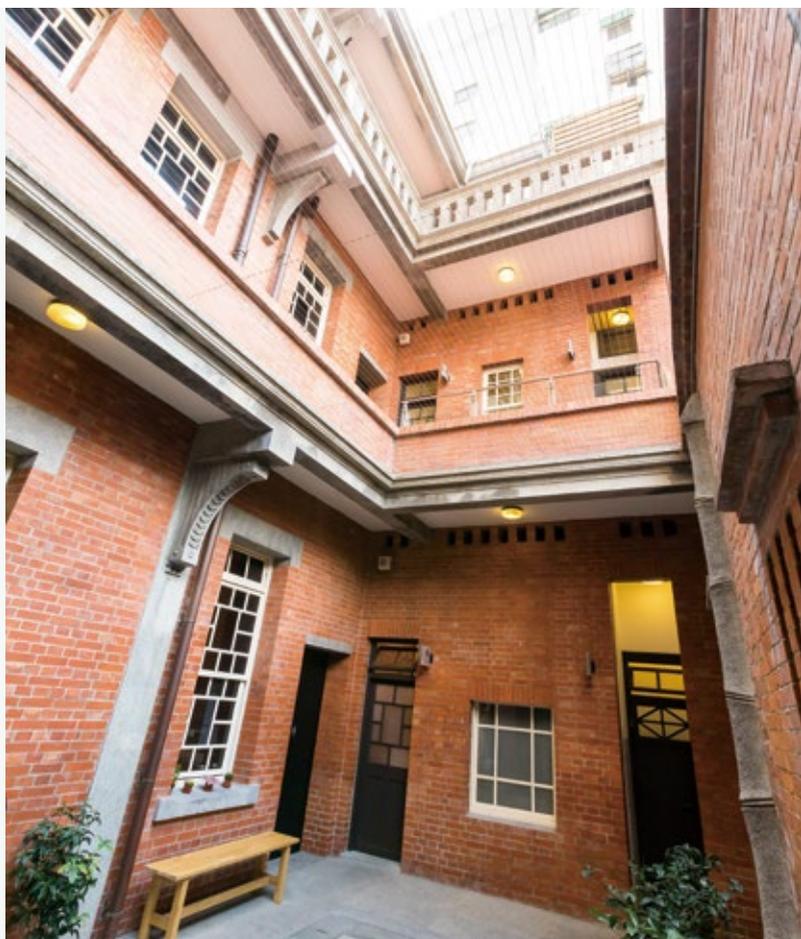
古い街並みにできたクリエイティブなショップは、行楽客を引き付ける魅力の一つとなっています。(写真/楊智仁)

います。また、世界的な映画スターのトム・クルーズさんが台湾での新作 PR に来た際、台湾の歌姫、蔡依林（ジョリン・ツァイ）さんとの対談の場になったほか、日本の人気モデル、田中里奈さんが來台し台北観光について紹介したのもここでした。

台北市文化局によると、「旧城区復興運動」とは伝統を新たなやり方で発掘する歩みであり、現代的な視点で伝統を理解することです。大稻埕では今、産業や観光、新興産業であるクリエイティブ産業までいろいろなパワーが蓄えられつつあります。同局は史跡や歴史的建造物の修復と再利

用での活性化を図るだけでなく、大稻埕の歴史の歩みと新たな展示方法、新たな視点を組み合わせ、数カ所で文化的意義をもつ指標となるスポットを整備しています。例えば、台北では極めて少ない住居兼店舗のお茶屋さん「新芳春茶行」や、台湾の伝統戯曲の指標となる劇場「大稻埕戲苑」では、劇場街だった華やかな時代を再現、また日本統治時代の台北北警察署の建物を台湾新文化運動記念館として整備しようとしています。

このほか、「老房子文化運動」と銘打ったマッチング体制を整え、古い建築物の修復を進め、クリエイティブ産業関係者から創意あふれ



新芳春茶行は修復を経て、優雅で美しいたたずまいが再現されました。(写真/劉徳媛)

る構想を取り入れるなどしています。民間の参加を通じて、市と所有者、クリエイティブ産業関係者、民間企業を結び文化遺産保護と修復に取り組む新たなパートナーシップを構築する狙いです。

再開発の「実験場」で ともに都市を再生

台北市都市更新処の詹育齊・副総工程司は、「(再開発事業を手掛ける)更新処の仕事には人情味がある」と形容します。同処が大稻埕で行うのは、古い建築物の再生、URS 都市再生前進基地、大同再生計画、コミュニティ・プランナー・スタジオなど、すべてコミュニティ再生

の角度から、実際に人々のいる家屋や空間、暮らしに足を踏み入れ、コミュニティ全体を結び付け、「大稻埕博物館」というコンセプトを実現することです。

いま台北市が推進している「旧城区(旧市街地)」をめぐる各プロジェクトとはつまり、台北で最も古くから発展した市街地、艋舺、大稻埕、台北府城の3カ所の整備です。人々が集まり商業が一定の規模に達していたところです。ですから大稻埕のように早くから繁栄し、歴史の基盤もしっかりしている地域は、再開発であれ再生であれ、公共部門が積極的にリソースを投入し、「旧城区復興」の成果が期待される実験の場となっています。URS 都市再生前進基地計画



URS都市再生前進基地計画では再生を軸に、古い建物の本来の姿を残します。(URS155団円大稲埕内の屋根裏スペースと柱の様子。写真/許斌)

では、「再生」を軸に、これまでのスクラップ・アンド・ビルド方式から、古い枠組みに新しいコンセプトを注入する方式に転換、古い下町の環境を改善して産業を誘致した上で、この街に熱い想いを抱く人々に空間を開放したいとしています。

現在、大稲埕にはコンセプト基地5カ所があり、更新処はこの地に根を下ろす個人や団体に空間やプラットフォームを提供、専門家・研究者と地元の人が共同で実行可能な空間利用モデルを模索します。ですから、同じ空間であっても、実験の違う段階においては、それぞれ異なる概念や経営形態が生まれることが考えられます。同処は「大事なのは地域それぞれ

が経済モデルを持ちながら生活を送ることができ、アイデンティティと人々の共感を呼び覚ますことです」と計画の成り行きを楽観的に見守っています。つまり、水に石を投げ入れると波が立ち、そこからさざ波が広がっていくように、より多くの人々の参加と共感を呼ぶことを期待しています。

おもしろいことに、大稲埕の物件所有者は流れを見極めて動くのに長けていて、URSや古い建築物の再生が成功したのを見て、大稲埕に暮らした家族の思い出や生活の些細な出来事を思い出し、自身の所有する古い家屋を修復して再利用することに興味を覚え動き始めたりするそうです。



URS127玩芸工場ではアート講座を開き、子供たちに大稻埕と触れ合う機会を提供。(写真/台北市都市更新処)

クリエイティブなショップ 新たな形態に民間も参入

大稻埕の再開発と新しいクリエイティブ産業は磁石のように人を引き付け、この歴史的な地域にインスピレーションを得た若者が自らこの流れに参入するケースがますます増え、地域の伝統と新しいアイデアがぴったり噛み合うようになっていきます。

最近の大稻埕の史跡活性化事業における民間の参入で賞賛を浴びているものに「迪化 207 博物館」があります。国家表演艺术中心（舞台芸術センター）の前董事長、陳国慈さんが自費で古い建物を購入し整備、史跡活性化の個人的実践ともいえる民間の博物館となりました。地元の古い建物に自らの物語を語らせ、この歴史的な舞台を通じ、人々の共通の思い出を保存する博物館とすることができると陳さんは考えています。

現在、大稻埕国際芸術祭の発起人、周奕成さんが仲間と立ち上げた「芸埕」シリーズは、大稻埕ではおなじみになったクリエイティブなショップのモデル的存在です。地域内で相次いで古い建物を借り受け、方向性を調整しつつクリエイティブなショップやアーティストを呼び込み、「民芸埕」、「小芸埕」といった複合スペースを作り、この地域のクリエイティブな精神を盛り上げる先駆者となりました。

その後、大稻埕の地元にも元から根付く各地の食品、漢方薬材、茶葉、布地、美食といった特色ある産業と結び付いたクリエイティブなショップやマーケットが続々と出現するようになりました。迪化商圈発展促進会が行った「大稻埕本草パーティー」では、地元の漢方薬材や各地の食品を利用して、たくさんの「本草（漢方材）」をベースにした飲み物や軽食を開発、伝統的な地域でも最先端を味わうことができると行楽客に向け発信しました。



大稲埕の復興の動きは着々と進んでいます。市は今年9月から歩行者天国（迪化街の帰綏街から南京西路区間）を試行、おおむね好評です。旧正月前の年貨大街（年越し用品セール）まで続けられる予定で、ここからも大稲埕の地場産業の発展と都市開発に対する人々の前向きなパワーを感じることができるでしょう。台北市全体を大きな博物館とすると、大稲埕はすでに「古い街の再生」という同地域ならではの鮮やかなブランド色を打ち出し、より多くの人と語り合うのを待ち望んでいます。📍



大稲埕の漢方薬材店では、全く新しい漢方薬の新しい飲み方を開発、若い人たちの人気を集めています。(写真/許斌)



大稲埕の URS 都市再生前進基地

URS44 大稲埕共学堂

大同区迪化街一段 44 号

URS127 玩芸工場

大同区迪化街一段 127 号

URS155 団円大稲埕

大同区迪化街一段 155 号

URS27W 城市影像實驗室

大同区延平北路二段 27 号

URS329 稻舍

大同区迪化街一段 329 号



日本統治時代に発記茶行としてにぎわった建物は、修復され URS27W 城市影像實驗室として生まれ変わりました。(写真/許斌)



台北で見つける 台湾人奮闘の道 — 延平北路

名士から庶民まで 包み込む暮らしの場

文 葉思諾

写真 許熾、張哲生提供



1967年の延平北路と長安西路の交差点付近の
にぎわい。(写真／張哲生提供)



延平北路と南京西路の交差点にたたずむ建物、現在ではさほど珍しくない50メートル幅の店舗は、今から50年前には台湾全土で一、二を争う豪華で堂々とした店構えでした。この「大千百貨」はたくさんの人にとって延平北路の大事な思い出の一つで、かつてこの大通りの隆盛を見守ってきました。一度は廃れてしまいましたが、修復を経てかつての姿を取り戻し、在りし日の繁栄を思い起こさせてくれます。

華やかさ一番の モダンな場所

「小さいころいちばん楽しみだったのは、旧正月に両親に連れられて大千百貨に服を買いに行くことでした」。朝陽服飾材料区発展協会の呂国維理事長は語ります。大千百貨がオープンした40年前から50年前、隣近所の人々がわれ先に台北初のエスカレーターに乗ろうと争ったそうです。また、百貨店の周辺には貴金属・宝飾品や舶来ものを扱う店が立ち並び、いまの信義計画区くらいしゃれた地域だったと言います。

延平北路は日本統治時代の旧名を「太平町通」といい、大稻埕商圈で最も存在感のある3つ

の通りの一つでした。羽振りのいい商人から熱心に政治活動に取り組むインテリまでがここを活動の場とし、日本人が中心だった「城内」とはだいぶ様子が異なっていたといいます。

この雰囲気は開放的でモダン、台湾「初」もたくさん生まれました。台湾の人が初めてオープンしたカフェはちょうど大千百貨のそばに位置する「黒美人大酒家」の前身、「維特珈琲庁」で、台湾初の洋食店は民生西路と延平北路の交差点そばにある「波麗路餐厅」です。また、延平北路は台北の酒家文化（料亭文化）の発祥地の一つで、酒家に通う文人や風流人のそばには、お供をする琴棋書画をたしなむ芸妓たちの姿がありました。

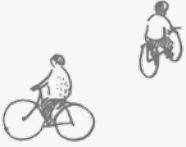
酒家文化は1970年代から1980年代にかけてさらに栄え、延平北路沿いには15軒以上の酒家が立ち並びました。「商人は商談をしたり、ダンスホールで社交ダンスを踊ったものです」。呂国維さんは小さいころからボタンなどの服飾材料の山に囲まれて育ったので、商業界の大人の付き合いも見聞きしていました。

衣料産業の全盛期 周辺の発展けん引

経済が急速に発展し始めたころ、必死に頑張れば誰にも飛躍するチャンスがありました。延平北路一段の百貨店の隆盛は、二段にひしめく衣料産業の繁栄をけん引しました。



延平北路は1920年代にはすでに建物が林立していました。(写真／張哲生提供)



延平北路近くで40年余り商店を営む徐劉美恵さんは、在りし日の繁栄を昨日のこのようにはっきり覚えていてます。(写真/許斌)

「あのころは客が押し寄せ、一日中トイレに行けないこともしょっちゅうでした。高級なクリスタルでできた単価の高い商品は、お客さんに紹介するときすぐ手に取りやすいよう足元に置いていたほどでした」。南昌行の責任者、徐劉美恵さんはこう言います。40年ほど前、大稲埕の衣料卸売は隆盛を極め、ボタンやゴムといった服飾材料の需要も大幅に伸びました。全盛期には数百メートルの路地に200軒もの服飾材料店がひしめき、幅3メートルほどの道は人の声で沸き返り、車が盛んに往来するという、とてもにぎやかなものでした。

娯楽の場も夜を彩りました。日本統治時代に茶葉の商いをしていた大物、陳天来さんが建てた第一劇場に加え、大橋戲院、国泰戲院、大光明戲院といった劇場が相次いでオープンしました。たくさんの人が昼間は商売、夜は

映画やダンス、スケートを楽しみました。徐劉美恵さんが「命知らず」というほど、身体の疲れも忘れて活動していたそうです。

庶民文化と米食の発祥地

台北橋を過ぎると、その北側の延平北路はがらりと風情が変わり、豪快な庶民文化を見ることが出来ます。ここは朝から晩まで昼夜問わず忙しく、中南部から台北に来て頑張っている労働者たちが、橋の下に集まり仕事を待ち構えます。深夜になると大きなトラックが一台一台この道に入って来ます。延平北路三段全体を埋め尽くすオートバイの店は、かつてすべて自転車の卸売でした。トラックの姿が見えなくなると、夜明けを待たずして、これから仕事に出る人々を相手に、付近の人々が販売する「粿（米をペースト状にして蒸して固めたもの）」の仕込みに勤めます。

「まるで『清明上河図』（庶民の姿が生き生きと描かれた北宋の絵巻物）のように、にぎやかに栄え、ひと時も休まることはありませんでした」。この地元である国順里の陳穎慧里長は、かつての繁栄ぶりを懐かしく思い起こします。陳さんによれば、労働者たちは百貨店や高級レストランでお金を使うことはあまりなく、路上の屋台で麺や小皿料理をつまみ、少しばかりの酒で一日の労苦をねぎらいました。ナイトマーケットの延三夜市はそこから徐々に形成されたと言います。

労働者たちの必要に応じ、国順里は米食文化の発祥地となりました。小さな路地を曲がると60年の歴史を持つ林貞粿行があります。二代目の林裕強さんによると、1940年代ごろ、この

一帯は田んぼと精米所で、どの家でも「粿」を作って売っていたため、のちに「粿仔街」と呼ばれるようになったそうです。「昔は景気のいいときには、一日にどれだけ作っても作っただけ売れました」と語り、旧正月には短い路地にも人があふれ、30分以上かけても大通りに出られなかったそうです。

歴史ある商圈に新たな活力

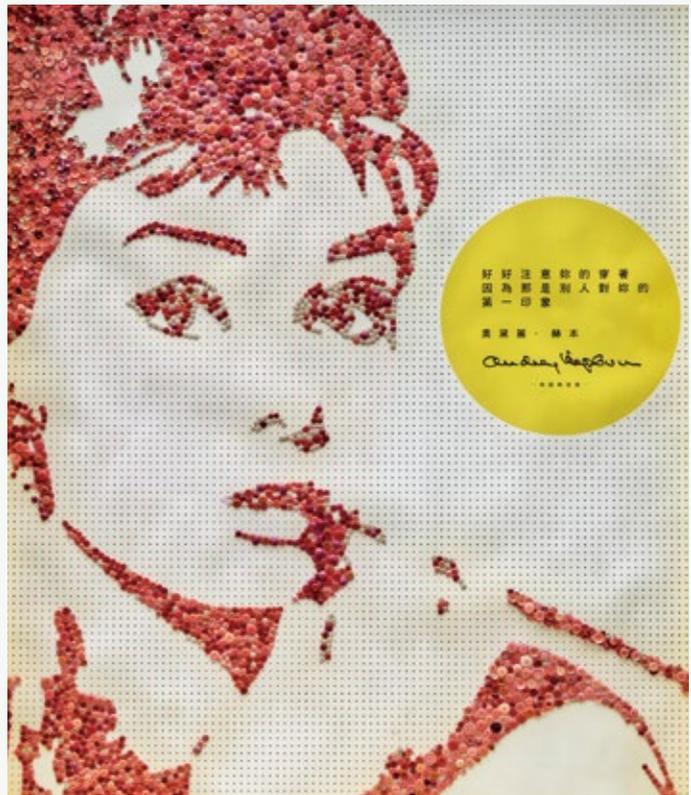
かつて見渡す限り広がっていた田んぼには建物が立ち並び、橋の下で客待ちをする三輪車はいなくなったものの、延平北路は現在でも台北市と新北市を結ぶ重要な道路で、今ここで新たな活力が動き出そうとしています。大千百貨にほど近い延平北路二段の旧黒美人酒家は修

旧黒美人酒家は現在カフェと
なっています。(写真/許斌)





糝仔街は米食文化の発祥地で、多種多様な米食メニューが作られています。(写真/許斌)



朝陽服飾材料商圈にあるボタンで描かれたアートウォール。(写真/許斌)

復を経て、カフェとなって地元の大稲埕の若い芸術家たちが交流しています。アート系、レトロ系がブームになるのにつれ、延平北路と南京西路の交差点付近の古い衣料品店跡にも、クリエイティブなショップが進出し始めています。

「昔はよくここでボタンなど材料を買ったものです。ここでもらった創意のパワーに恩返しのため、コミュニティを変えていきたいです」。アートスペース「新樂園芸術空間」のアーティスト、張雅萍さんと周能安さんは若いアーティストを動員して、朝陽商圈の老舗とともに地域再生に取り組み、創意を目玉により多くの人を引き付けたいと考えています。

時が流れ世の中が移り変わっても、延平北路にはあの太平を謳歌した時代の息づかいと、モダンで前衛的な空気がいまでも漂っているようです。📍



艫舩へ行こう 伝統とのつながり 未来へ続く道

文 _ 林盈足

写真 _ 許斌、黄建彬

広盛益は10数年前の日本や韓国のドラマのブームを好感し、若い女性向けの流行のファッションへと路線を変えました。(写真/許斌)



万華は台北でも有名な衣料問屋街の一つで、さまざまな衣料品店が立ち並び、最先端のファッションから、台湾製の綿100%の下着、さらには上海の熟練の職人から伝わったチャイナスーツの型紙起こしの技術に手の込んだ装飾品・工芸品まで取りそろえます。万華にひっそり集まる老舗と達人たちは、時代の移り変わりの中で、独自の特色を打ち出し、発展と変化の歩みを見つめてきました。



台北市商業処はより多くの人に万華を知ってもらおうと、特にユニークな店と職人を探し歩きました。ここの人々の奮闘の物語を通じて万華に興味を持ってもらい、古い艋舺（万華の旧名）のイメージを一新したいと考えています。

ファッションの街 時代とともに歩み続ける

30年前から40年前にかけ、万華の大理街は台湾でも指折りの衣料問屋街でした。しかし、インターネットの普及で消費行動が変わり、いかに衣料街としてのにぎわいを保つかが地元の店のいちばんの課題となっています。創業40年を超える今も客がひっきりなしに訪れる衣料品店「広盛益」の王店長は、最先端のファッションを把握していることが強みだと微笑みます。「川上の卸売ですから、小売店の店頭よりもさらにファッションセンスを研ぎ澄ませていなければ生き残れません」。

現在では若い女性のファッションを中心としている広盛益ですが、昔は着心地のよい綿のTシャツがほとんどだったそうです。ただ、10数年前に日本や韓国のドラマによって巻き起ったブームと、インターネット上に膨大な情報が流通している時流を見極め、大なたを振るいファッションナブルな衣料中心に方向転換しました。

「流行はくるくると変わりますから在庫は抱えられません。今年売れなければ来年もほぼ売れません」。王店長によれば、大理街では衣料

品の好みの変化を見られるだけでなく、客のほうもより賢くなっていることが分かります。以前は安ければいいという考えだったのが、今ではスタイルや形、コーディネートなど十分選り好みするのだそうです。

顧客への対応だけでなく、メーカーへの発注もハードルが上がっています。「在庫がなくなればそれまで、売れ行きが良くても布地がなくなればもう作らないというメーカーもあり、他

下着とベビー用品専門の老万昌。店主の裴志鵬さん(左)は老舗を受け継ぎ、商品の質の高さとサービスで顧客から厚い信頼を受けます。(写真/許斌)



の工場を当たって顧客のニーズを満たさなければなりません」という王店長は、現在では20数社のメーカーと取引しており、「忙しいけれど、これでやっと満足 of いく品揃えができ、ネットショップに負けない卸売としての優位性を保つことができます」と言います。

問屋街 昔ながらの下町の熱い人情

下着とベビー服を専門に扱う「老万昌內衣行」の二代目、裴志鵬さんは、父親について商売を覚えつつあった48年前のことを振り返ります。当時の万華にはオートバイや自転車の修理店に薬局などが並び、台湾鉄道の万華駅に近いので、卸売の人々が集まり、衣料品店が密集することで相乗効果もあり徐々に衣料品商圏が形成されていきました。

この一帯の移り変わりを隅々まで見守り、父から受け継いだ老舗を守る裴さんは、自身の人生は姓(裴)と同じ『「非衣」莫属(=「衣」ひとすじ)』だと笑います。「6歳からこの店番を始め、ここで育ちました」。物心ついてからは休みを利用して両親の手伝いを始め、検品をするかたわら、どのように商品を紹介するかや顧客への対応の作法を学んだそうです。老万昌の商品は台湾製が9割にも達し、原料の生地は柔らかくて快適、どんな年齢層の人でもぴったりの下着が見つかります。これも50年の老舗が今でも信頼の厚い得意客をいくつも抱えている理由の一つです。

裴さんは、東南アジアとの低価格競争に直面したことで、一度は市場での優位性を失いかけたこともあると率直に語ります。「でも、台湾の紡織産業のレベルは高く、しばらくすると顧客も徐々に戻り、海外に移住した人も帰ってくるたびここで購入してくれます」。

品質と信頼にこだわる裴さんは台風の日や旧正月を除き、一年のうちシャッターを下ろす日数が半月を超えることはありません。「客が訪ねてきても店に誰もおらず、もう一度来させるのは忍びない」と言います。言外に顧客への思いやりをにじませる裴さんの話しぶりから



チャイナスーツの型紙起こしの名職人、林俊卿さんは年端もいかないころに苦労して技術を学びました。堅実で熟練した技が光る服は内外の客から賞賛を浴びています。(写真／黄建彬)

は、万華という古い下町で最も大事にすべき厚い人情が隠し切れません。

繁華街 路地裏にひそむ熟練の技

古い街には40年の老舗も珍しくありません。こういった老舗にいる熟練の職人こそ人を取りこにしています。和平西路のとある建物の二階にある「九段工場」には、チャイナスーツの型紙起こしの達人、林俊卿さんがいます。



店名の「九段」は黒帯の最高段位にちなんだもので、まるで林さんの素晴らしい腕前をうたっているようです。チャイナスーツといえば、林さんの名は台湾でも一、二にあげられるほど知られていて、顧客には高官や芸能人も多くいます。伝統的なチャイナスーツやチャイナドレスは、型紙起こしの技がとても重視されます。型紙がよければ、着心地もよく、よりスタイルよく見せてくれます。なぜこの職を志したのかと聞くと、林さんは「地に足をつけて生きるには、一芸に秀でることが絶対に必要です」と答えます。

家庭の事情で高い教育を受けられなかった林さんは、わずか13歳のころ、当時チャイナスーツの職人が1日で下働きの労働者の3日分を稼ぐことに憧れ、西門町で上海からきたベテラン職人に弟子入りします。「師匠は山東人で

したから飛び切り的大声で怒鳴られました。でも技は申し分なく、当時最高の名職人でした」。

いちばん基礎の縫製から襟の仕立て、型紙起こしまで一步一步、着実に学び、18歳のときに独り立ち、わずかな蓄えをもとに店を構えました。ファッション市場の無限の商機を見越し、一度はチャイナスーツの技術を忘れて服飾加工や卸売を手掛け、短期間で十分な資金を貯めました。林さんによれば「30数年前、万華の店舗は1カ月の家賃が20万円もしましたが、月の売り上げは2,000万円ありました」と言います。

しかしながら投資に失敗したことですべてを失いました。このとき、ある思いがふと頭をよぎりました。「自分には一芸がある。型紙起こしの技術があった！」そこで、チャイナスーツで

九段工場の店内にあるチャイナスーツはすべて林俊卿さん自らデザインして型紙を起こしたもので、スタイルや柄に伝統を残しつつ新しさも取り入れています。(写真/許斌)





郭丞関さんが華西街に店を構えるのは、行き交う人々から創作のインスピレーションを得たいからだと言います。(写真/黄建彬)

再起を果たし、ますます失われつつあるこの素晴らしい技で地に足をつけ、一着一着手の込んだチャイナスーツを縫い、自身の人生をも再び一針一針縫い上げるように歩みを進めました。

観光エリア 技で台湾をアピール

万華のもう一方の端、華西街観光夜市（ナイトマーケット）を進んでいくと、たくさんの店の中に、ひとときわ際立つ緻密な技の手作りアクセサリーの店「RUBY」があります。店主の郭丞関さんはまだ30歳ですが、その熟練の技とデザインのセンスで、欧州市場でも高く評価されています。

小さいころから金属が放つ光に魅了された郭さんですが、手作りアクセサリーの道に入っ

たのは偶然だと言います。「イギリスで勉強していたころ、何のご縁か世界の多くの有名ブランドのアクセサリーがかつてすべて台湾で受託生産されていたことを知りました。これほど手の込んだ技術が必要とされるものまで台湾が世界一だったと聞いて、台湾人として本当に誇りに思いました」。

郭さんはこの誇らしい気持ちを行動に移すべく、帰国してからかつて世界的なブランドの受託生産をしていた職人たちを訪ねて歩きました。「みな引退する年で、年齢や視力のせいで非常にきつくなっている技術もあり、これは自分が受け継がなければならないと思いました」。

郭さんは創作の過程で台湾の文化をデザインに取り入れる試みを実践しています。例えば



郭丞関さんの鍛え抜かれた技で独特のスタイルのアクセサリーが生まれています。(写真／黄建彬)

染め付けの陶器を宝石に見立て、オパールを合わせて一風変わったスタイルのイヤリングにしたり、東洋の装飾芸術である房紐をアーティストティックにアレンジ、伝統と現代が入り混じる、ユニークなデザインの工芸品に仕立てたりしています。なぜ最先端のアクセサリーの店を万華に構えたのかと聞くと、郭さんは「万華の人々はあちこちを行き交います。各地、各国の人をつなぎ、さまざまな客が全く新しいインスピレーションを与えてくれて、いつも外に開かれた目線を保つことができます」と独自の視点を話してくれました。

台北で最も古くから発展した地域として、万華は時代とともに移り変わり続けています。老舗は伝統を受け継ぎ、新しい店は無数の生命力

を与えてくれます。このほか、龍山寺地下街の地下1階には有名な占いストリートやマッサージ店が並び、手土産なども買えます。地下2階「艋舺龍山文創 B2」は、「地元のデザイナー、アーティスト、クリエイターを育てる」ことを主眼に、地元発のブランドを発信し、ガイドやアートパフォーマンス、ワークショップなど人々が交流したり体験したりしながら、万華の文化とクリエイティブなパワーを発見することができます。

在りし日の繁栄や磨かれて輝く新しい世代のどちらも体感したいなら、万華を訪れてみてはいかがでしょうか。夢みたい華やかな昔の台北にいるかのような体験ができることでしょう。📍

街の片隅の物語

多様な文化と暮らし集まる台北

演出家・廖若涵さん

文__ 涂心怡

写真__ 2017 台北ユニバーシアード組織委員会、黄宇凡、Shutterstock.com



(写真/ 2017 台北ユニバーシアード組織委員会)

成功裏に幕を閉じた台北ユニバーシアードでは、各競技だけでなく、三部構成の開幕式も大きな話題を集めました。若いスポーツ選手が主役の大会だけに、開幕式のパフォーマンスも「For You・For Youth」という台北ユニバのスローガンに則って新世代の演出家3人が共同で指揮を取りました。そのうち廖若涵さんが演出した『匯聚台北 (ハイブリッド・タイペイ)』は、トタン屋根や看板、夜市 (ナイトマーケット) などの要素を大胆に取り入れ、台北の暮らしの風景や食文化をありのまま表現しました。また先住民バンド、Boxing 楽団と先住民歌手、A-Lin さんが繰り広げたステージでは、選挙やデモ、虹 (性的少数者の象徴) といった記号を散りばめ、「民主台北 (スピリチュアル・タイペイ)」を表現しました。このパフォーマンスの中で表現された、様々な要素の寄せ集め、ぶつかり合いといった特色は、台北という都市が絶え間なく姿を変え、前に進んでいることを象徴するほか、廖若涵さんがつぶさに観察し、感じ取った台北の姿が映し出されたものなのです。

(写真/黄宇凡)

Q1. 台北人として抱く台北の印象は？

私自身は台北人ですが、所属する台南人劇団には多くの台南人がいます。彼らの台北人に対する印象は「冷たい」というもので、これを聞いた時には、なぜこんな誤解があるのかと不思議に思いました。恐らく、台北では生活のリズムが比較的速いため、人間関係が少し希薄になるということはあるでしょう。しかし、台北にも人間の温かみが満ちています。例えば MRT では知らない人間同士でも互いに関心を寄せ、当たり前のようにコミュニケーションを取ります。ついこの前も、たまたま隣に座った子供に語りかけるお年寄りの姿を見たばかりです。

Q2. 落ち込んだ時に立ち寄る、心の秘密基地はどこにありますか？

行天宮や龍山寺を散策するのが一番好きです。特に朝課（朝のお勤め）に取り組む信徒たちの頭上を煙が漂う光景にはうっとりするような美しさを感じます。まるで形の無い何かがたくさん交流しているようです。そして廟の中に入れば、すぐに身も心も落ち着き、プラスのエネルギーに満ちてきます。また、気分がすぐれない時は家の中にこもり、心を落ち着かせ頭を空っぽにします。



龍山寺 (Baiterek Media / Shutterstock.com)



龍山寺 (asiastock / Shutterstock.com)

Q3. 『匯聚台北』はどのようにして生み出されたのですか？

当時、私に提示されたテーマは「台北」というものでした。創作チーム内で台北の様々な側面について議論し、最終的に二つのキーワードを選び出しました。その一つが「発展途上」です。台北は未だ発展を続ける都市であり、変化の余地と可能性が大きいという意味です。そしてもう一つのキーワードが「変容力」です。

私たちがパフォーマンスの最初に表現した台北の風景はトタン屋根でした。多くの若者が屋根の上を駆け巡り、飛び跳ねることで数多くの変容のエネルギーがどんどん生まれる様子を表しました。またイメージを喚起するオブジェとして看板を使用しました。看板について

多くの人は乱雑で醜悪と感じるかもしれませんが。しかしそこに記された繁体字そのものは非常に美しく、特別な文化的記号でもあります。私たちはこの看板を通じて最も深いところにある真実の台北を観衆に見せたかったのです。

Q4. 『匯聚台北』を演出する過程で直面した最大の困難は？それをどのように克服しましたか？

演出するには通常、克服すべき問題に数多く直面します。私たちは当初、様々なものが空中を飛び交う立体的な視覚効果を想定していましたが、会場となった台北陸上競技場の環境を考えると実現は不可能でした。これを逆手にとって、最終的には地面にLEDディスプレイを敷きつめ、深さを表現するというアイデアを思いつき、幾重もの奥行きや立体感豊かな空間的效果を生み出すことに成功しました。

Q5. 台北は創作に適した都市だと考えますか？

もちろんそう思います。台北は情報の流れが速く、何かをやろうと思えば、発表の場を見つけたり、人、情報と結びつくことなど、一連の流れは非常にスピーディーに進みます。台北は私にとって慣れ親しんだ街ですが、それでもたくさんの刺激とインスピレーションを与えてくれます。

Q6. 台北が持つ、創作の基礎となる要素としてはどのようなものが印象的ですか？

台北には、風景そのものを含め創作を生み出す要素が数多く存在します。例えば MRT に乗ると、窓の外の建物が走り去るように見えますが、私にはそれが映画を見ているように感じられます。車両の中に座っていると外の音は聞こえませんが、一つ一つの窓の外では様々な物語がいま起こっています。これらの物語が創作にインスピレーションをもたらしてくれます。

Q7. 台北を代表する作品を選ぶとすれば何ですか？その理由を教えてください。

まず頭に浮かぶのは『独立時代（エドワード・ヤンの恋愛時代）』、『青梅竹馬（台北ストーリー）』といった楊徳昌（エドワード・ヤン）監督の映画です。彼の作品は私にとってすごく「台北的」です。カメラが写し取る題材もその理由の一つで、楊監督はいつも冷静な目で観察した台北という都市の姿を映画の中に投射します。ある部分は非常に都会的であると同時に、台北人の生活や心情に鋭くメスを入れ分析しているように感じます。

Q8. あなたは作品の中で常に「音の創作」を模索しているように感じます。その理由は？

人は常に音を通じてそれに関連する映像や空間を連想します。そして同時にその連想の中には多くの感覚器官に結びついた要素が含まれます。かつて演出した作品では、小道具が何もない舞台上で演者が声でゆでる音や野菜を切る音、鍋や茶碗がぶつかる音を表現し、厨房内



(写真/黄宇凡)

廖若涵

台南人劇団の座付き演出家。2017年台北ユニバーシアード開幕式のパフォーマンス『匯聚台北』を演出した。細部に強い意志を込めた作品で知られ、特に近年は、演劇における音の可能性に着目した作品作りに取り組んでいる。主な作品に『遊戯辺縁』、『安平小鎮』、『阿章師の拉哩欧』などがある。

で湯が沸き、調理している光景を観客に思い浮かべてもらうようにしました。興味深いのは観客一人一人の想像する映像が大きく違ったことです。

Q9. 台北の街角の音はどのように表現しますか？

一つの音で台北を表すことは難しく、身を置く場所によって変わると思います。例えば北投市場なら異なる方言、調理する際に出る様々な音など。台北で最も面白いのはエリアや道によってそれぞれ耳に入る音も違うということです。

Q10. 台北の最も好きなところは？

私にとって台北は、整然と秩序だった欧米の都市やハイペースで緊張感のある東京とは異なり、生活の温もりを持った街です。少し田舎っぽいところと、とても現代的なところが矛盾しながらも混在する、自由で快適なところが大好きです。台北を知らない人にもこの街の温もりを存分に感じてほしいと願います。📍

身寄りのない動物に生きる権利を

動物たちの心優しい味方—黄慶栄さん

文__ 盧逸峰

写真__ 黄建彬、四點設計

現代人にとってペットは家族同然の存在として大切に守られています。しかし、それでも飼い主に捨てられ、街をさまようペットは多く、一種の社会問題となっています。一方、身寄りのない動物たちの問題に、非営利団体という形で取り組む人たちがいます。中華民国保護動物協会もそんな団体の一つです。彼らは街をさまよう動物たちに適した生活環境を与え、より良いケアが受けられるよう力を尽くしています。

身寄りのない動物に未来を

獣医師でもある保護動物協会の黄慶栄秘書長は幼いころから犬や豚、牛などと触れ合いながら育ち、動物たちに特別な思い出があります。台北市で開業した後、黄さんは都市における野良犬問題に目を向けると同時に、動物保護法改正の推進役の一人となりました。そして1999年、保護動物協会に加入して



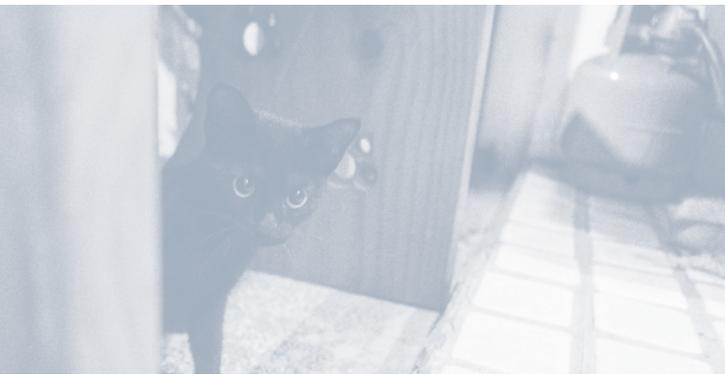
黄慶栄さんは捨てられた動物たちの生活環境改善に役立てるため、長年にわたりたくさん本を読み動物のケアに関する知識を新たにしています。(写真/黄建彬)



活動を始めました。彼は「動物たちのために声を上げるといことは私にとってとても自然なこと。なぜなら動物たちが不適切に飼育されている姿を黙って見てられないのです。だからより多くの動物が恩恵を受けられるよう、協会としてさまざまな取り組みを行っています」と、思いを込めて語ります。

「動物保護界のアイデアマン」の異名を持ち、ペットたちの生活環境改善のため様々な方策を考案している黄さんによると、協会では現在、「你領我養」、「狗来富」、「寵物食物銀行」といった取り組みに力を注いでいるそうです。「你領我養」というのは、市民が里親となり毎

月寄付を行うことによりペットを飼うという方策で、動物たちは普段、収容施設で世話を受けますが、里親が数日間、ペットを自宅に連れ帰り、楽しい時を共に過ごすことも可能です。また「狗来富」という取り組みは飽和状態にある保護動物収容施設の状況を改善するため、台湾各地の施設と協力して犬たちが思い切り走り回れるスペースを得られるよう手配するアイデアです。動物版のフードバンク「寵物食物銀行」は協会が寄付で購入した良質のエサを各地の飼育施設に提供するもので、これにより十分な人数のスタッフを確保する資金的余裕が施設に生まれ、動物たちが十分なケアを受けられることにつながります。



(写真/四點設計)

台北市の野良犬、野良猫問題は以前に比べ改善したものの、それでもまだ小額の寄付や馴染みの保護施設への支援、協会への協力など、動物好きな市民に積極的に協会のプロジェクトに関わってもらう必要があると黄さんは言います。また学校や団体ぐるみで新北市にある八里収容所を訪問して動物たちに触れ合ってもらいたいと語っています。

黄さんは「お互いに少しずつ支援の手を差し伸べれば、動物たちが今よりも良いケアを受けることができる」と訴えます。協会は今後も捨てられた動物たちの問題解決に対し、温かい気持ちで真摯に取り組み、「命を大切にす」という大切な価値観を日常生活の中に浸透させていく考えです。📌

BEYOND TAIPEI

台北から台湾を見渡す

日台交流協会台北事務所
沼田幹夫代表

文 江欣盈

写真 施純泰

台湾と日本の歴史的つながりは深く、その始まりは16世紀まで遡ることができます。以後400年に及ぶ台日関係は、政治的な覆いを取り除けば、民族、文化、言語、貿易、工芸、人の思いが織りなす、果てしなく広がるな帆布のような姿として立ち現れます。1972年の国交断絶後、日本と台湾は実務的な外交関係を保つため、非公式な交流の窓口機関としてそれぞれ「財団法人交流協会」と「亜東関係協会」を設立し、経済・貿易面での協力を続けました。そして45年間の努力が実り、2017年に交流協会が「公益財団法人日本台湾交流協会」、亜東関係協会が「台湾日本関係協会」へと名称を変更したことは、両国の実務交流を確固たるものとした

ほか、友好関係の発展にとって重要な一里塚となりました。

思い出の地、台北と再会

2014年7月に交流協会台北事務所の代表に就任した沼田幹夫さんですが、これが初めての来台ではありませんでした。沼田さんが大学生だった47年前に台北を訪れた当時、台北市の規模は現在の半分に過ぎず、MRTも、台湾高速鉄道（高铁）も、全市を網羅する路線バスもありませんでした。東区（市東部）ではインフラ建設が始まったばかりで、今や金融・ビジネスの中心となっている信義区には一面に水田が

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所

日本の対台湾窓口機関で、政府に代わり経済、文化、学術、技術といった分野における交流を進めるほか、日本人旅行者や在台日本人ビジネスパーソンの入国、ビザ、教育、就業、生活に関する支援および相談など、在外公館と同様の業務を行っています。

📍 台北市松山区慶城街 28 号（通泰商業ビル）

☎ 02-2713-8000

🕒 査証等受付時間：月～金曜・
9:00～12:30、13:30～16:00

🌐 https://www.koryu.or.jp/taipei/e23_contents.nsf/Top



日台交流協会台北事務所・沼田幹夫代表（写真／施純泰）

広がっていました。一方、1970年代の西門町は最も華やかな時代を迎え、武昌街だけで映画館が10軒以上、軒を連ねていました。まさにそこは台北市民にとって娯楽の聖地であり、若者たちが帰りたくなるほどのグルメ天国でした。文化の近さ、通じ合う言語、そしておいしい料理の数々。台北は若かりし沼田さんに強烈な印象を残しました。それから約半世紀、沼田さんは外交官として米国、中国、香港、ミャンマーなどでの職務を歴任し、経験豊富な大使となりました。そして、40年のキャリアで恐らく最後の海外赴任となる台湾へやって来た彼は、他の国際都市と比較した上で「私にとっては台北が一番」と語ります。

台湾は日本人にとっても親しみやすく、衣食住すべてであまり苦勞することはありません。観光局の統計によると、2016年に台湾と日本を相互に訪れた旅行者の数は600万人を超えました。しかし、そのうち台湾から日本への旅行者が約429万人を占め、日本から台湾への旅行者は約189万人にとどまりました。単純計算すると、台湾人の5人に1人が日本を訪れたのに対し、台湾を訪れた日本人は70人に1人に過ぎず、その上、訪問先は台北市に集中しました。こうした不均衡は、総人口の差だけでなく、文化に対する認識の差が要因と考えられます。沼田さんも、台湾人は日本各地の伝統文化や自然、建築物、料理などを詳しく知っているが、日本人は台北以外の台湾についてあまり知らないと指摘します。

文化で友と交わる 尽きない台湾の魅力

既に台湾で3年を過ごし、中国語での会話にも不自由しない沼田さんは、「台湾へ来て台北だけで過ごしても、台湾を見たことにはならない」と語ります。彼はこの島の北から南まで各地の美しさを数多く挙げた上で、台湾観光の魅力は各縣市、さらには小さな街や村に潜んでおり、こうした地を体験してこそ旅行者は台湾独自の魅力を感じることができると強調します。日台交流協会は2014年から17年にかけて、官民間問わず多くの芸術・文化活動を支援してきました。例えば2014年には故宮博物院所蔵の「翠玉白菜」と「肉形石」が日本で初めて東京国立博物館で一般公開されたほか、2016年からは嘉義県の故宮博物院南部院区（故宮南院）で「日本美術の粋—東京・九州国立博物館精品展」が、台南市の奇美博物館で「おもてなし 宴のうつわ・茶のうつわ—静嘉堂蔵日本陶磁名品展」が開催されました。これらのイベントには、様々な地域における芸術・文化交流を通じて台湾各地に観光客の目を向けさせたいとの期待が込められていました。

一味違う台湾へようこそ

2011年に日台間で航空自由化（オープンスカイ）協定が締結されて以降、台北以外にも台中、台南、高雄と日本各地の空港を結ぶ直行便が就航していますが、台湾鉄路（台鉄）や高鉄を利用すれば、どの都市も台湾旅行に最適の出発地点となります。桃園・新竹・苗栗はそれぞれ、無数の溜め池、風の街、山に囲まれた天空の世界が広がります。台中・彰

化・南投エリアはそれぞれ、鉄道と信仰、農業に関わる文化が脈々と受け継がれています。雲林・嘉義・台南エリアは豊かな歴史と文化が息づく海産物と米の名産地です。寄せては返す波と青い空の南国、高雄・屏東エリア。平原と山なみ、切り立った溪谷で知られる宜蘭・花蓮・台東エリア。そして首都としての輝きを放つ台北。

「日本と台湾の若者が友だちになること、それが私の願いです」という沼田さんの言葉は、台湾の全ての若者の願いでもあります。フォルモサ（美麗島）の名で知られるこの島が生まれてから数百万年の時が過ぎたと言われますが、太平洋に浮かぶ「台湾」という船はまだまだ若々しく、美麗、勇敢、情熱、誠実、革新という名の乗組員が黒潮の上で帆を掲げ、櫓をこぎ、世界に向かう航海へと出発したばかりです。📍

国立故宮博物院

「故宮」の名で親しまれ、中国の歴代王朝秘蔵の文物を数多く所蔵しています。新石器時代から現代までの8,000年間にわたる絵画、書、各種器具、彫刻、歴史的文献など19のカテゴリーに跨る70万点近くを擁し、台湾では最大規模の博物館であり、世界に名だたる中国芸術と漢学の研究機関でもあります。中華文化の愛好家には必見の施設です。

📍 台北市士林区至善路二段221号

🕒 年中無休：08:30～18:30

夜間開館：毎週金、土 18:30～21:00

台湾とフィリピン をより近く

マニラ経済文化弁事処
アンヘリト・バナヨ代表

文 Rick Charette 写真 陳伯璋

フィリピンは、この40年間の政治における発展がしばしば世界の注目を集めています。アンヘリト・タン・バナヨさんは傍観者としてではなく、その渦中に身を置いてきました。舞台裏、とくに国政の裏方として多くの政府要人を支え、国民のため、人々の声をより反映させる進歩した政府を作り上げ、従来のやり方を覆すべく努力しています。

現在、バナヨさんは自ら「より目立たない」仕事に取り組んでいます。台北に住み、マニラ経済文化弁事処（MECO）を率いてもミッションは以前と同じ—フィリピンの仲間がより良く暮らせるよう、台湾、台北とフィリピンの友好関係をより深めることです。

バナヨさんはビジネスパーソンとして社会に出ました。企業で働くかたわら、経済やマー

ケティングについて大学で教えていました。政治の世界へ足を踏み入れたのは1980年代初めのことです。その後、フィリピン観光省代表、政治家ジョセフ・エストラダ氏の顧問、ベニグノ・アキノ三世の大統領選の幹部などを務めました。

台北への道

2015年から2016年にかけて、ロドリゴ・ドゥテルテ氏の大統領選キャンペーン活動で広報と戦略を担当。ドゥテルテ氏が大統領選で勝利をおさめたのち、台北に異動しました。

「実は海外任務は今回が初めてです」とバナヨさんは言います。「これまではずっとフィリピンが拠点でした。さまざまな役職で他の国々と仕事をしてきましたが、特にASEAN（東南アジア

諸国連合) 諸国と良い関係を築いています。この歳になって外交に関わりたいと思い、ドゥテルテ大統領の同意を得て台湾へ来ることを選びました。2016年6月に任命され、11月から台北に住んでいます。実は同大統領に外交官に任命されたのは私が一人目です」。北京などいくつかの候補地から選んだのは台北、台湾でした。

台北の印象—過去と現在

「台湾は大好きです。赴任前にも何度か訪れたことがあり、多くが台北で開催される会議の代表としてでした。私は台北の発展を目の当たりにしています。初めて訪れたのは1987年、その後の変化は実にドラマチックでした」。サンワールドダイナスティホテル(旧アジアワールド)のある敦化北路周辺など、当時ビジネスの中心だった台北市東部でもほとんど未開発だったことを思い出します。きらびやかな商業エリアの信義区もわずか30年前は草木が生える農地でした。それが今や、素晴らしいデザインのビル群が立ち並んでいます。

「台北の長所は、急速に都市化が進んでいるのに、公園や緑地、憩いの場がバランスよく存在しているところです。フィリピンではコンクリートだらけのビル街に公園はほとんどありません。台北や台湾の都市は開放的な空間と都市化された空間がバランス良く保たれ、本当に素晴らしいと思います」。

「この国には驚かされます。テクノロジーのみならず、人々が勤勉で忍耐強い。農業であれ工業であれ絶え間ないイノベーションによって生産物は少しずつ改良され続けています。目

標が何であっても、アプローチは科学的です。この点をフィリピンの人々が学べるよう支援し、台湾の知識や手法をフィリピンに持ち込みたいものです」。

台湾とフィリピンの違いをバンレイシ(台湾名は「釈迦」)を例に取りこぎ説明します。「フィリピンでは段々見られなくなり、台湾のものより小さく種が多く食べるのに骨が折れます。台湾ではテクノロジーと勤勉さ、粘り強さで大きくて甘く、クリーミーな美味しい果物の一大市場が生まれています」。

また、企業の上層部で働く友人と、台湾の医療水準がいかに高く、世界的なレベルであるかということについて話し合ったことがあるといます。友人は、台湾の医療水準はスウェーデンに次ぐと言ったそうです。

台北に来て—台湾でのミッション

「台湾とフィリピンはとても近く、マニラから台湾桃園国際空港までは飛行機でわずか1時間45分です。2017年に北部カガヤン州に新空港が開港し、供用開始でさらに短くなりました。しかし物理的距離が近いのに、台湾人とフィリピン人はお互いよく理解していません。私は文化と教育の交流を通じ相互理解を促進していきたいと思っています。長らく貿易と商業が重視されてきましたが、これからは同士の温かいつながりを育てることで結びつきはより強くなるでしょう」。台湾が推進する「新南向政策」(東南アジア、南アジア、オセアニアの諸国との全方位的な関係強化を目指す政策)、そしてフィリピンやASEAN諸国の渡航者に対するビザ免除は好ましいことだと言います。「台湾とASEAN諸国の友情は強固になり、地域全体の安全も強化されるでしょう」。

休暇の過ごし方

「台北は公園へ行ったり本や雑誌を読んだり、散歩したりするのに便利です。象山^註の登山道にもよく行きます。マニラにはこういうところがなく、田舎まで行かないといけないのが残念です。自由な時間には長めの散歩をしたり、ジョギングや早歩きをしたりします。住んでいる信義区にも多くの公園があります。これが私が台湾を楽しんでいる理由です。フィリピンと違い、高層ビルの谷間にも公園がありとてもバランスが取れています。台湾が成し遂げた成功に異論は唱えられません。どこへ行ってもその裏付けを見ることができます。」

フィリピンの旅人が見る台湾

「フィリピンの人々が台北や台湾に惹かれる理由はたくさんあります。ひとつは、香港に飽きていることです。香港も台北もフィリピンから同じくらいの距離にあり、とくに中産階級の人々は頻繁に香港を訪れます。私はフィリピンの新聞に『台北、台湾へ来てみてください。食べ物は同じように美味しいし、買い物もより安く楽しめますよ』と伝えています。フィリピン人は買い物が好きで、これは米国から学んだのかもしれませんが。台湾は夜市（ナイトマーケット）でもアウトレットでも安く買い物ができますので、このことをウェブサイトでもアピールしています。」

注：象山は「四獣山」を構成する4つの山のひとつ。信義区の南に位置し、台北を一望できる中級レベルの登山道がある

台北／台湾の観光にあればいいものとは

「基本的には台北の既存のものにさらに何かを加えるのは難しいでしょう。大人は公園や緑地を好みますが、フィリピン人の多くが子ども向けの場所を必要とするでしょう。家族を連れて来た時、大人向けのものが多いと気づきました。素晴らしい美術館や公園などがありますが、子ども向けなのは動物園くらいです。インタラクティブな娯楽がより必要で、それがより多くの観光客を呼び込むと思います。」

「その他、台北に限らず、大きい文字で書かれた英語の道路標示を検討してはどうでしょうか。外国人旅行者が自分で運転する場合、漢字が分からないと不便ですし、英語は下のほうに小さく書いてあるだけです。夜はかなり読みづらいです。大きな英語の標識があると助かります。小さなことですが、重要です。」^①



「拿鞘 Nature」の山が育てた夢

若い世代と先住民文化つなぐ

文 _ 鍾文萍

写真 _ 楊智仁



「拿鞘」はビンロウの鞘葉でデザイン性の高い生活用品を製作しています。(写真/楊智仁)

ビンロウは、台湾先住民の文化と深いつながりがあります。先住民社会においてビンロウは部族、身分、階級、性別、年齢を超えて人々の間に広まっているものです。サキザヤ族は儀式の際にビンロウを供物にします。またアミ族の衣装にはビンロウを入れる袋が付いていて、女性は好意を持つ男性にそこから取り出したビンロウを渡します。先住民はビンロウやキンマなどで大切な客をもてなし、友好と敬意を表します。昨年創業した「拿鞘 Nature」は先住民文化をデザインに取り入れ、ビンロウに全く新しい文化的な意義をもたらし、毎年大量に落ちるビンロウの鞘葉（しょうよう）を現代的な生活用品に生まれ変わらせました。「捨てられた落ち葉を生まれ変わらせるとどんな姿を見せてくれるのか、やってみようと思ったのです」創業者の劉大衛さんはこう言います。

新しさと先住民の特色 天然素材で表現

「鞘（さや）」とは樹木の幹あるいは茎を包んでいる葉の根の部分のことです。これまでは役に立たないものとして捨てられたり焼却されたりするだけで、粗末に扱われていました。劉さんは、ビンロウの鞘葉とプラスチックや金属などとの最も大きな違いはビンロウの鞘葉は自然が生んだものであり、成長した時間、地域、気候によって大きさや厚さが異なり、それが作品の仕上がりに影響することだと言います。「拿鞘 Nature」のメンバーたちは鞘葉をつけておく水の温度や火であぶった時の縮小率の制御、折り曲げる角度や叩き方などさまざまな実験を通じて、徐々に適切な成形と処理方法を



ピンロウの鞘葉で作られたユニークなノート。(写真/楊智仁)

戲台市集（「拿鞘」作品販売所）

📍 中正区中山南路 21-1 号

☎ 2397-1920 内線 30

🕒 09:00~23:00

見い出していきました。こうしてピンロウの鞘葉は無害で防虫、防水、湿気を除く一方で、化学的な製法を一切使わない絶好の天然素材へと生まれ変わったのです。

鞘葉を使った作品のひとつひとつはどれも数多くの実験を経て、苦勞の末に完成した血と汗の結晶です。例えば色の濃さが異なり、自然の葉脈が縦横に交錯する鞘葉の一枚一枚を数々の手作業を経て額縁に収めた「自然鞘画」や、大きくて平らな傷のない鞘葉をリングでとめた「鞘事記」ノートなどがあります。また「鞘サンダル」は台東アミ族の新鋭デザイナー・高彩霜さんによるデザインで、生産はピンロウの葉を使ったシューズブランド「Betel Life」に委託しました。作品は先住民文化の特色とブランドの魅力がまとめて表れています。



「鞘サンダル」にはずっと手元に置いておきたいようなアミ族の細やかな模様が描かれています。(写真/楊智仁)

先人たちの道具の使い方も、しばしばデザインが生まれるきっかけになります。例えばアミ族はピンロウの鞘葉を折りたたんで鍋を作ります。この手法を利用して、温かな光を灯す「鞘ランプ」や小物を入れる「鞘ボックス」が生まれました。現代的な新しさがありながら文化の彩りも兼ね備える新たな質感を放っています。

台湾の多様なエスニック・グループの文化は幾度もの衝突と歩み寄りを経て、ついにお互いを理解し、受容し、称賛し合う新たな時代を迎えました。このような精神がデザインの世界に反映され、私たちに異なるエスニック・グループ、異なる地域の工芸文化の奥深さを見せてくれるのです。先住民は台湾でずっと自然素材を活用してきた聡明な人々です。「拿鞘 Nature」の新たな世代のクリエイターたちはこれまでと異なる形で、大地と自然を崇める先住民の精神を敬い、作品を通じて若い世代と先住民文化の新しいつながりを生み出そうとしています。📍

生活の味わいと姿を伝える

台湾らしさ満開の「花布」

文__鍾文萍

写真__楊智仁

布を買うなら永樂布業商場（布市場）、事情通なら誰でも知っているでしょう。許万福さんが営む「新経美」は永樂布市で「花布」を売る老舗です。許さんは彩り鮮やかな赤い花布に話が及ぶとまず、この布の正式な名前は「花布」なのだと言いました。「多くの方がこの赤い花布を『客家花布』と呼びますが、実は違うんです。この布は昔から台湾のどの家でも使われていたもので、『台湾花布』や『阿婆仔布（おばあちゃんの布）』とも呼ばれています。客家人だけが使っているものではないんです」。一方で許さんはまた、「とはいえ客家委員会が使用するよう推進に取り組み続けたから、花布は今まで廃れることがなかったのですがね。」と笑います。

永樂布市は台湾花布の主要な卸市場の一つです。





「新経美行」を営む許万福さんは伝統的な花布を扱い、顧客の好みも熟知しています。(写真/楊智仁)

年配世代に人気のおめでたい色合い

1950年代、台湾の紡績業は米国の援助の下で大きく発展しました。遠東紡織（現：遠東新世紀）や太全などいくつかの紡績会社は、日本から取り寄せたサンプルを参考にして台湾人が好む図柄を選び出し、それを画家に依頼して描き直したり、組み合わせたりして新しいデザインを生み出しました。多くがサクラ、ボタン、ハイビスカス、ヒナギクなどをあしらったもので、縁起の良い赤い色の上いっばいに精緻なタッチで花々が描かれたこの布は大人気となりました。人々は花布を布団カバーやシーツ、さらにはふきん、袖カバーなどにしました。花布は戦後の台湾に色鮮やかで豊かさと喜びにあふれる新たな気風をもたらしたのです。

新経美行

📍 大同区迪化街一段 21 号
(永楽市場 3 階 39 室)

☎ 2556-7539

🕒 06:00~18:30



1946年、許さんの父は桃園から台北へやってきて永楽市場に店を開きました。「新経美」は永楽布市の中で最も花布の品揃えが良い店の一つとなり、台湾全土の花布を扱う店のほとんどがここで布を仕入れているそうです。花布を売って何年にもなる許さんは、お客さんの好みの変化をよく把握しています。かつては花がより大きく、全体の色がより赤いものがよく売れたそうです。しかし現在では反対に、若い世代はすっきりとシンプルで人とは違うスタイルを好むため、以前は人気のなかった青、緑、黒といった色や、客家の新たな象徴とみなされている小さな桐花（アブラギリの花）の模様が人気となっているのだそうです。

古き良き生活の美をリバイバル

半世紀にわたり、台湾人と共に歩んできた花布。時代の変化に伴って最先端の材料や染色・織布技術が登場していますが、それで「台湾花布」が廃れることはありません。一方、同じく大稻埕に生まれた「印花楽」は伝統的な花布の鮮やかな色調から解放された、台湾の自然や暮らしのイメージを創作の要素とし、よりオリジナリティの高いプリント布地を作り出しました。「印花楽」の製品は目を引くだけでなく、従来のプリント布に対する人々の印象もくつがえしています。

伝統的な花布がお客さんの好みに合わせているのとは異なり、「印花楽」のデザインはデザイナーの台湾の生活に対する細やかな観察と体験が取り入れられ、また新しい世代の大地に対する強い使命感と懐しさへの思いも秘められています。例えば、繰り返しプリントされた台湾八哥（タイワンハッカチョウ）の意匠は、私たちに台湾固有の生物が直面している困難を思い出させます。また「老建築（古い建築物）&旧花磚（花柄タイル）」と「鉄花窗（花型の窓格子）」シリーズは、かつての台湾の生活にあった美を復活させたもので、古き良き堅実さと優雅さがあります。これらの布地は布団や枕カバーだけでなく、財布、ブックカバー、ボトルカバー、布絵、ランプなどにも使われています。時代遅れになることなく暖かで豊かな詩情にあふれた花布は、きっとみなさんをあらためて驚かせてくれることでしょう。📍

生活の中にあるイメージを活かした「印花楽」の製品はオリジナリティにあふれており、若い世代に人気です。（写真／楊智仁）



印花楽（大稻埕本店）

📍 大同区民楽街 28 号

☎ 2555-1026

🕒 09:30~19:00



受け継いだ 音楽のDNA

魂込める
バイオリン作りの道

文 _ 鍾文萍

写真 _ 楊智仁

バイオリンの修理には多くの道具と精巧な技術が要求
されます。(写真/楊智仁)



台湾の先住民は音楽界に素晴らしい人材を次々に輩出しています。それは私たちがよく知っている歌手や台北ユニバーシアードの開幕式で会場をひとつにした「泰武古謠伝唱隊」だけではありません。台北・天母にはひっそりと音楽を生業（なりわい）とする国宝級の人材——陸光朝さんがいます。チェコの「バイオリン製作家（Master Violin Maker）」証書を持つ彼は、現在の台湾ではごく少数のバイオリンの修理、演奏、調整、手作業による製作を行う職人です。

恵まれた音感 技術の鍛錬

陸さんはプコマ族が暮らす台東県の南王集落の出身で、父は先住民音楽家の陸森宝さんです。歌手の陳建年さんからは「おじさん」と呼ばれる人物で、隣村には張恵妹（アーメイ）さんが住んでいました。陸さんは楽器を習ったことはありませんでしたが、子供の頃から音程が外れているかどうか正確に判断できたそうです。「先住民は生まれつき音感が優れていると言われますが、おそらくそうなのでしょう」。自分を「じっとしてられない性格」と笑う陸さんは早くから実家を離れ、修道院や軍学校へ入った後に警察官や観光ガイドを経て楽器メーカーの営業担当になり、43歳の時にようやくバイオリンやチェロなどの調整・修理の部門で助手となりました。ある時、社長の指示でチェコへ行ってバイオリン修理の技術を学ぶことになり、それが彼の人生を変えました。

「当時は全くの駆け出しで何もできず、あやうく台湾へ送り返されるどころでした」。チェコの親方は陸さんに2週間の時間を与え、毎日1つの作業だけを行わせました。それはパフリング（バイオリンのふちに彫られている線）を入れる作業で、簡単そうに見えますが実際はそうではありません。陸さんがせっかちな気質を抑えまじめに取り組むと、2週間後親方は黙って彼に別の作業を与えました。「その時、合格し



陸光朝さんが歩むバイオリン製作家の道は困難に満ちていますが、いつも楽しく向き合い疲れ知らずです。(写真／楊智仁)

たのだと分かりました」。半年の努力の結果、証書を手にした時には体重が20キログラム以上も落ちてしまい、空港に迎えに来た家族がほとんど彼だと分からないほどでした。「まるで税関から骸骨がふらっと出てきたみたいだったんです。」

業界の人々は陸さんを「肝っ玉の陸」と呼びます。17世紀イタリアの名器・ストラディバリウスや18世紀のガアルネリ、その他百年の歴史を持ち、億単位の価値がある古いバイオリンから名のあるバイオリンまで、なんでも修理します。元々作りが悪く組み立てに問題があり修復が非常に難しい場合でも、断りません。「自分の手を動かして直すことでのみ技術を向上させることができます。これらの歴史をくぐりぬけてきたバイオリンたちが再び美しい音色を奏することを願っています」。修理する際、陸さんは使用者の演奏方法を真似て、その人のくせに応じて音を微調整していきます。こうして楽器を「使用

者にとって最もスムーズ」な最良の状態に戻すのです。しかしながら、非常にデリケートな使用者に出会うのが最も怖いと笑いながら言います。「全く聞こえない音もあるので、ゼロから調整するからです」。そういう時は使用者との対話に頼るしかありません。言葉や文字から判断し、再び修復を試みます。「ですので、職人は技術が優れているだけでなく、よく話を聞くことやコミュニケーションの技術もとても重要です。」

かつて、陸さんは1週間かけて1丁の古いバイオリンを修理したことがありました。作業が終わった日の夜、白髪の外国人が夢に現れて彼に感謝を述べました。翌日、資料を調べてみた彼は、夢に登場した老人がそのバイオリンの製作者であったことを知ります。それはまるで時空を超えた魂の交流のようで、今でも思い出すと感動で胸がいっぱいになるそうです。音楽に魂を込める陸さんの人生は、愛する仕事に取り組む毎日で楽しく疲れ知らずです。📍

真っ赤なお正月へ ようこそ！

台湾の旧暦のお正月といえば赤！赤！赤！門に貼る真っ赤な春聯に、所々に飾られた真っ赤な飾り付け！この季節は台湾中が力強い真っ赤な色に染まります。また、親戚一同がそろってお正月料理を食べたり、お参りをしたりしてドタバタと忙しくなるときでもあります。

町の至る所で、「おめでとう！」の挨拶と笑い声が聞こえ、一年で一番熱を感じることができるこの季節、さあ観光で来た皆さんもぜひお寺や繁華街に行って、普段とは違う台湾を感じてみてくださいね！



作・絵 Iku 老師 (佐藤生)

facebook ikulaoshi

YouTube

Iku老師/Ikulaoshi

冬季号 2017 Vol. 10



客家のおもてなし文化 伝統料理の懐かしい味発見

文 _ 鍾文萍

写真 _ 楊智仁



晋江茶堂は古民家の建物を利用しているため、店内にはレトロな雰囲気が漂っています。(写真/楊智仁)

台湾のエスニック・グループの一つで、独自の文化を持つ客家の人々。台北では客家の人々はその昔、かつて存在した台北城の南側に位置する中華路二段の住宅エリア「南機場公寓」周辺に集住していました。幹線道路が走るため商業が盛え、客家人たちは近くの南昌路をはじめ同安街、晋江

街、汀州路に店を出し、客家人のコミュニティーが次第にあちこちに形成されていきました。台北市客家文化主題公園や市内で人気の客家料理店2軒がこのエリアにあるのも、こうした歴史的な背景と無関係ではありません。

伝統料理を今風にアレンジ

「晋江茶堂」は裏通りに隠れた古民家を利用した客家料理店です。料理長の謝豊明さんは、伝統的な客家料理は「塩辛い・香ばしい・油っこい」が特徴で、これをおかずにご飯を何杯も食べて働く力をつけていましたが、今の人たちはあっさりとした味を好むため、調理法を少し変えていると話します。きしめんに似た米の麺「板條」は油で炒める代わりに醤油とシイタケ、エビを加えて軽く混ぜ合わせ、香ばしいながらも油っこくない味わいです。豆酥(揚げたおからに醤油やゴマ油などで味付けをしたもの)をまぶした玉子豆腐は暑い日に食べるとあっさり感が格別です。「冷泉油鶏」は山林などで放し飼いされた鶏の肉をスープで煮て、そのまま冷やして味をしみ込ませてから表面に油、塩をすり込んだ料理です。肉の表面はしっとり滑らかで、店特製のキンカンソースをつけて食べると口当たりが良くとてもジューシーです。このほか、魚のトマト鍋、牛バラ肉とキムチの煮込み鍋といったメニューの提供を始めたところ、興味津々の若い人たちがさらにお店にやってくるようになりました。ここ数年、客家の農村で注目を集める野菜、水蓮菜(台湾ガガブタ)の細長い葉柄部分をショウガの千切り、赤



客家のおもてなし茶「擂茶」(晋江茶堂)



焼き板條 (晋江茶堂)

トウガラシと一緒にゴマ油で炒めた料理はほのかな香ばしさと辛さが良いアクセントになっていて、とてもシャキシャキした食感です。主食は粿條以外にも熱々の白米に醤油、ラードをからめた口当たりのなめらかなご飯もあり、一口食べると懐かしい味わいが口に広がります。



冷泉油鶏（晋江茶堂）

客家ママの得意料理

お母さんというのは料理の神様のような存在で、家族のためにどんな食材も絶品のごちそうに変えてくれます。客家人家庭のお母さんも多分に漏れません。客家料理店「甘家伙房」の洗面器より大きな皿に盛られた鶏肉、豚足、客家小炒（干しイカ、干し豆腐、ネギ、シイタケ、トウガラシなどの炒め物）といったメニューからは、お客さんに良い食材を使った料理をお腹いっぱい食べてもらいたいという、女将さんの我が子に注ぐような愛情が伝わってきます。料理長の甘瑞琴さんは、客家人は物資が極めて不足していた時期を経験しているため、食料に対する危機意識が強いと話します。食材を長持ちさせ、無駄をなくすために、福菜（塩漬けた野菜を天日干しし、密閉した容器で自然発酵させたもの）やタケノコの漬物、梅干菜（カラシナ類の漬物）のように、野菜を漬ける習慣があります。甘家伙房の豚足料理は炒めたタケノコを加えて蒸しており、豚足にしっかり濃い味がしみ込んでいます。肉の油がしみ込んだタケノコは香ばしく、適度な酸味でくどさを感じさせません。客家人がお客さんをもてなす際に欠かせない料理です。



ラードかけご飯
（晋江茶堂）

晋江茶堂

- 📍 中正区晋江街1号
- ☎ (02)8369-1785
- 🕒 11:00~14:30
16:30~21:00

客家人は昔、先祖や神様を祭る際に丸鶏、豚肉、干しスルメの「三牲」を供えていました。丸鶏をスープに入れ弱中火で煮込んだ後、塩、米酒、ごま油で味付けしたものは客家文化の宴席料理として有名で、タレをつけなくてもしっかりした味付け、香ばしいおいしさを堪能できま





甘家伙房の大盛り料理と店内の温かい雰囲気魅了され、多くの食通が何度も訪れています。(写真/楊智仁)



客家小炒 (甘家伙房)



豚足とタケノコの煮込み (甘家伙房)

す。食べきれずに余った豚肉、干しスルメを小さく切り、青ネギを加えて強みでサッと炒めれば、醤油の濃厚な香りと味わいを放ち、ご飯が進む客家小炒の出来上がりです。シャキシャキした食感とそのおいしさに思わずとりこになりそうです。📍



トウモロコシ (玉米) を飼料に放し飼いで育てられた玉米鶏 (甘家伙房)



甘家伙房

- 📍 中正区汀州路三段2号
- ☎ (02)2367-8806
- 🕒 火～日曜日
09:00~20:30

先住民の郷土料理 大自然と大らかさを 味わう

文 鍾文萍

写真 楊智仁

台湾に移り住んだ外国人「新移民」の郷土料理と異なり、都市の先住民グルメのほとんどは故郷の集落から持ち込んだ食材、調味料を使っています。先住民料理のレストラン「哈喜拉・Hasila Food 原住民餐厅」のオーナーのサビさんは「山菜、イノシシの肉、香辛料の馬告（クベバ=ヒッチョウカの実）などは平地の食材で代替できません。集落の郷土料理の味を完全に再現するためには、食材選びで手間を惜しまないことです」と話します。

集落の食と雰囲気再現

「哈喜拉・Hasila Food 原住民餐厅」は林森北路と中山北路の間の路地裏に段にあります。8年前に開店し、お酒も販売するにぎやかな居酒屋スタイルのお店です。メニューには山奥に生息する野生の鳥や動物、植物の名前がずらりと並び、ここで食事はまるで野生食材の料理ショーを見ているのかようです。ビンロウ（檳榔）の花を湯がいて冷やし、ホワイトドレッシングを添えたサラダは、ほのかなミルクの香りとビンロウの花のシャ



哈喜拉 Hasila Food 原住民餐厅の店内にはシンプルで居心地の良い空間が広がっています。週末の夜にはよく先住民の歌手がライブを行っています。（写真/楊智仁）

キシャキ感と甘さが相まって、見た目にもおいしい料理です。イノシシの皮を店特製のタレとニンニクで混ぜ合わせた「涼拌山猪皮」は、一般の黒白切（豚モツなどの煮込みのぶつ切り）よりも厚みがあって、もっちりとしています。数量限定の



哈喜拉 Hasila Food 原住民餐厅のピンロウの花のサラダ「檳榔花沙拉」



哈喜拉 Hasila Food 原住民餐厅の「凉拌山猪皮」



哈喜拉 Hasila Food 原住民餐厅の「部落椒麻鸡」

「部落烤鱼」(先住民の里の焼き魚)に使用している魚は山間の川に生息するティラピアで、ワタを除いてニンニク、バジルを詰め込み、塩焼きにしています。魚の生臭さが全くなく、驚きのみずみずしさとうまみが口に広がります。

ほかにも「部落椒麻鸡」(先住民の里の薄切り鶏肉炒め)、「烤香魚」(焼きアユ)、「鉄板山猪肉」(イノシシ肉の鉄板焼き)などもボリューム満点でお薦めです。にぎやかで楽しい雰囲気での食事がお好きなら、週末の休みにこのお店へ足を運んでみてください。夜には先住民歌手

やバンドの生演奏が聞けますので、おいしい料理とドリンクを味わいながら音楽に合わせて踊ったり歌ったりすることもできます。先住民料理レストランならではの豪快で、気ままな雰囲気満喫しながら、素敵な夜を過ごすのも乙なものではないでしょうか。📍

哈喜拉 Hasila Food 原住民餐厅

📍 中山区中山北路二段 77 巷 19 号

☎ (02)2563-4992

🕒 17:00~02:00



永遠のグルメ聖地 「建成円環」

庶民の味と 助け合いの精神

1964年当時の建成円環と
周辺の様子。(写真/張哲
生提供)

文__葉思諾

写真__張哲生提供、台北市文獻館收藏、台北市工務局公園路燈工程管理処、黃建彬

台北市の下町、大稻埕地区でかつて屋台街として賑わったロータリー「建成円環（現台北円環）」と言えば、「台北の小吃（庶民料理）」、「台北のグルメ」といった言葉を連想します。さまざまな階層の人々がご馳走にありつこうと友人たちと誘い合って建成円環や重慶北路の夜市へ行ったり、手持ちに余裕があれば近くの大中華劇院に映画を見に行ったというのが、ある世代が建成円環に抱く共通の思い出だからです。電子機器の受託製造サービス（EMS）世界最大手、鴻海精密工業の郭台銘董事長も近くの

天水路にあるお店によく牛肉湯（牛肉スープ）をすすりに来ていましたし、人気タレントの故・猪哥亮さんも建成円環に美味しい魯肉飯（豚肉のそぼろかけご飯）を食べに来たことがありました。

日本統治時代 小さな屋台が集まる

台北市大同区の南京西路と重慶北路の交差点に位置する建成円環は、日本統治時代から

既に有名な屋台街でした。台北と淡水を結ぶ台湾鉄路淡水線が開通した1900年代当時、ここは昼間はお年寄りたちが将棋やおしゃべり、運動をするために集まる小さな円形公園で、夜は様変わりしてグルメの香りが漂う屋台街になりました。

第2次世界大戦中、台湾総督府は夜間に灯火管制を行っていました。天水路の老舗牛肉麵店「金春発牛肉店」の3代目店主の妻、林珈吟さんは上の世代の人に「明かりがなかったから、みんな暗闇の道ばたで牛肉スープをすすっていた」と当時の光景を教えてもらったそうです。



建成円環には日本統治時代から屋台が軒を連ねていました。
(写真/台北市文献館収蔵)

戦況の悪化に伴い、台湾総督府は屋台の営業停止を命じ、建成円環の地面を掘って防空壕と貯水池をつくりました。工事の規模は今や知るよしもありませんが、建成円環の真下につくられた貯水池が直径11メートル、高さ2.2メートルもあったことから、建成円環のあった旧建成区（現大同区）にいかに関人口が密集していたかが分かります。

新しく生まれ変わった建成円環。歴史的な意義あふれる都会のオアシスとなっています。(写真/台北市工務局公園路燈工程管理処)



栄光の60～70年代

建成円環の最盛期は1960～70年代で、現在の東区（市東部）商圈のように賑わい、いろんな物がそろった「青空デパート」の様相を呈していました。重慶北路にある潤餅（クレープの皮のような生地）で肉、野菜などを巻いたものの老舗「万福号」の4代目店主、高海峰さんは「庶民料理や食品、服、靴といった生活必需品は建成円環で何でも販売していた」と当時の状況を話します。小さい頃から店の手伝いをしてきた高さんは、夕方に建成円環のフェンスに登り、道いっぱいぎゅうぎゅう詰めでゆっくり進む自動車やバスを眺めるのが好きだったそうです。

高さんによると、重慶北路の露店の列は帰綏街口から台北駅裏手まで続いていて、夜になると人声が沸き立ち、まるで不夜城だったそうです。金春発牛肉店の林さんは「当時、酒楼（料亭）は店の前に毎日車が列をつくって駐

車するほど商売が繁盛していた」と語ります。天水路に立ち並ぶ酒楼や、酒楼で働くチャイナドレス姿の上品な女性が牛肉スープをテイクアウトしに来たことが今でも強く印象に残っているとのこと。天水路の化学品販売店、太原路のびん、缶詰め容器卸売店など、建成円環商圈の当時の繁栄をうかがわせる老舗店舗は今もほとんど残っています。

懐かしの人情味と美味

建成円環の全盛期には100軒以上の屋台が所狭しと立ち並び、秘伝のおいしい料理を味わってもらおうと売り声を上げていました。重慶北路で魯肉飯（豚肉のそぼろかけご飯）を販売する老舗店舗「龍鳳号」3代目店主の沈炳宏さんは「あの小さな場所で100軒以上も店を出せたのは、みんな仲が良かったから」と、店主たちがお互いに助け合っていた状況を話します。龍鳳号の魯肉飯を食べにきたお客さんのために、他の屋台の料理の注文を取ったり、会計も合算していました。店主

建成円環は憩いの公共空間となりました。（写真／黄建彬）



たちは深夜の閉店後、食器に基づいて清算し合っていたといいます。

1970年代に重慶北路の拡幅に伴い屋台は撤去され、建成円環だけが商圈の真ん中に取り残されました。その後、相次ぐ火災のために改築されましたが、あまり効果ははかばかしくなく、最終的に元の姿に戻りました。現在、建成円環は緑地のある公園となり、過去の隆盛が忘れ去られないように日本統治時代の防火用貯水池も再現されています。

建成円環の店主たちが心をつなげて助け合っていた伝統は今も変わっていません。重慶北路には移転された旧円環郵便局や、少し歩いた先にある魯肉飯とフカヒレスープで有名な三元号、魯肉飯の龍緑号、龍鳳号、万福号など、助け合いの伝統を守る老舗有名店が偶然にも同じ道路沿いに店を連ねています。

受け継がれる 円環のグルメ文化

重慶北路二段から西へ向かって少し歩いたところにあるのが建成円環商圏内だった寧夏路で、ここにはグルメが集う寧夏夜市があります。寧夏夜市の屋台の約6割は2、3代目店主が商売を営んでいます。小さい頃から寧夏路で育ったという「里長伯臭豆腐」の料理長、李啓栄さんは「建成円環はグルメ文化の象徴です。私たちは庶民の食文化を社会の流れに合わせてこれからもずっと発展させるという共通の信念を持っています」と話します。



建成円環のグルメと文化は店主たちの努力によって別の場所で生き続けています。(写真/黄建彬)

寧夏夜市はここ10年、政策に合わせて分流式下水道の整備、流し台、水道の取り付けを進めてきました。また、他の夜市に先駆けてキャッシュレスの支払いができるようにしました。さらに、お互いに助け合い、一丸となって頑張る建成円環の伝統を受け継ぎ、寧夏夜市の厳選の品々を一度に食べられる「寧夏千歳宴」というメニューの提供も始めました。

沈さんは「建成円環がどう変わっても、建成円環が私の育ての親であり、私たちのルーツであることに変わりはありません」と話します。かつて多くの人で賑わい、公園という形で戻ってきた建成円環。この地で育まれた豊かなグルメ文化が世代から世代へと受け継がれ、その精神は未だに色褪せることなく生き続けています。📍

味・色・香り全て良しのご当地グルメ

延三夜市の魅力に迫る

文 _ 焦桐

写真 _ 楊智仁



「津津豆漿」の揚げたて蛋餅

台北市大同区の延平北路にある延三夜市は小さいながら、とてもお気に入りの夜市（ナイトマーケット）です。大龍峒地区は延三夜市があるからこそ輝き、特別な魅力を放っています。延平北路三段には朝市もあり、揚げたての蛋餅（薄焼き玉子をクレープのような薄い皮で包んだもの）で有名な津津豆漿のほか、延平北路三段25之3号には朝食の屋台も出ています。

延三夜市一帯の一押しグルメ

私が提唱する「大夜市」のコンセプトは、今はなき建成円環夜市を復活させ、延三夜市、大龍夜市、周辺的美食と結びつけることで

す。延三夜市にはたくさんのグルメがありますが、残念ながらまだ全てを制覇できていません。特に好きなのが「葉家五香鶏捲」のチキンロール、「大橋頭阿宝師台東鱈魚麵」のタウナギ麵、「阿欖大橋頭肉粽」の肉入りチマキ、「台北橋頭魯肉飯」の魯肉飯（豚肉のそぼろかけご飯）、「祥記純糖麻糬」の餅、「阿春粥店」の肉粥、「汕頭沙茶牛肉」の牛肉の沙茶醬（台湾風サテソース）炒め、「老程麵店」のゴマだれをからめたジャージャー麵、「延三夜市生炒魷魚羹」のスルメイカのとろみスープ、「嘉義雄鷄肉飯」の鶏ササミ丼、「杉味豆花」の豆花（豆腐のデザート）、「施家鮮肉湯円」の肉団子スープ、「大橋頭潤餅」の潤餅（クレープの皮のような生地で肉、野菜などを巻いたもの）で、ほかにも「新竹旗魚米粉」のカジキ汁ビーフンは大好物です。

北部の汁ビーフンの大半は太いビーフンが使われます。豚肉、内臓を煮込んだスープには太いビーフンが使われるとも言えます。延平北路三段の新竹旗魚米粉や布市場「永樂布業商場（永樂市場）」近くの「民樂旗魚米粉湯」のような魚介スープのビーフンは新竹ビーフンのよ

うに細いです。特別な理由があるわけではなく、昔からの慣習なのでしょう。南部の汁ビーフンは魚介スープがメインで、大半は細いビーフンを使用しています。北部の汁ビーフン店の多くは「大稻埕米粉湯」のように黑白切（豚モツなどの煮込みのぶつ切り）も販売しているため、豚肉、内臓、豚骨を煮込んだスープとなっています。



「杉味豆花」の豆花

新竹旗魚米粉のカジキ

汁ビーフンは民衆旗魚米粉湯に比べ、カジキのサイコロ肉、スープ、ビーフンのいずれも丁寧に作られており、スープの色も味も濃い一般の汁ビーフンと違って見た



「新竹旗魚米粉」のカ
ジキ汁ビーフン

目が美しく、さっぱりとした味わいです。カジキのサイコロ肉とは別に魚のつみれも入っていて、その組み合わせについつい口元が緩んでしまいます。美しい揚げ物も多く、私は特に揚げ豆腐、カキのから揚げ、紅糟肉（紅麴をまぶした肉のから揚げ）、チキンロールがお気に入りです。また、大龍街夜市にある「郭記大塊肉羹」の肉のとろみスープも好きです。📍

本編は台北市観光伝播局が出版した『味道台北旧城区（台北下町の味）』からの抜粋です。美食を訪ね、美食を追求して10年以上になる作家・焦桐さんが台北市の艋舺、大稻埕、大龍峒などのお店を半年近くかけてめぐり、167店を厳選しました。旅人を台北の昔懐かしい味の探索へと誘います。

『味道台北旧城区（台北下町の味）』

焦桐著／定価 250 元／台湾全土の大手書店でお買い求めください



新竹旗魚米粉

📍 大同区延平北路三段 83 号

☎ (02)2585-4162

阿穰大橋頭肉粽

📍 大同区延平北路三段 19-1 号

☎ (02)2597-5779

杉味豆花

📍 大同区延平北路三段 56 号

☎ (02)2598-3638



ムスリムの画家 張曼麗さんの芸術と人生観

文 _ 高穂坪

写真 _ 黄建彬

張曼麗さんは円によって、輪廻の秩序という生命の悟りを表現します。

近くから見ると色彩豊かで変化に富み、遠くから見るとまるで循環と往復が繰り返され、絶え間なく生まれては消える円のように一米国から戻った芸術家・張曼麗さんの作品は、熟練した技法と独特の美学で宇宙空間にそれぞれ独立し、また時間の流れに伴って共に入れ替わる森羅万象を表現しています。そこから輪廻の秩序という生命の体験、そして調和と受容の人生観を形作っています。天地の法則によって、世界の秩序は定められますが、張曼麗さんの筆は天と人は一体であり、「道」は自然ののっとるという東洋の哲学思想を体現しています。

東洋哲学×西洋技法 静かで洗練された作品に

張さんは幼い頃から書や絵が好きでしたが、台湾で正式な美術教育を受けたことはあ

りませんでした。27歳でニューヨークに渡り、ニューヨーク市立大学クィーンズ校で初めて芸術を学びます。その期間、教授の「目で観えたままに描く」という美学思想に影響されて潜在意識のまま自由に表現し、同時に絵画技法の習得にたゆまぬ努力を続け、徐々に自分のスタイルを確立しました。

眷村（戦後中国から渡ってきた外省人の集住地域）で育ち、米国の東西海岸で30年近く暮らしてきた張さん。長い間さまざまなエスニック・グループの文化に身を置いてきた中で、寛容でオープンな精神が養われました。結婚後は夫に従いイスラム教徒となりましたが、「真の神は無形」というイスラム教の核となる考え方は張さんが長年追求してきた真理と一致するものでした。またコーランの教えにある考え方も、創作理念に大きな影響を与えています。さらにアジアの宗教哲学の含蓄と西



張さんの抽象的な作風は、東方哲学と西洋技法の影響を強く受けています。(写真/黄建彬)

洋の技法をひとつにして、静かで洗練された抽象的な創作スタイルの作品を1枚1枚と生み出しているのです。

新旧の顔を持つ台北 あふれる創作の源

2011年に故郷の台湾へ戻ると、張さんは台北を創作の場を選びました。彼女は、台北は現代的な信義計画区もあれば、かつての文化が残された大稻埕などもあり、伝統と現代が共存している街だと考えています。カラフルなネオンの看板はこの土地の都市の美を表しており、街角のカフェは忙しい台北の生活にこっそりひと息つく空間を残してくれています。それぞれじっくり鑑賞する価値があるだけでなく、絶え間なく湧き出る創作の源でもあるのです。

近年、台湾政府は「新南向政策」(東南アジア、南アジア、オーストラリア、ニュージーランドなどの国々との全方位的な関係強化を目指す政策)を推進しています。張さんは、台北は国際的に名の知られた首都であり、その一挙一動が世界が持つ台湾のイメージになると言います。彼女は今後、世界各国のイスラム芸術家を招いてイスラム芸術をテーマとした展覧会を開催することを提案しています。芸術と文化の交流を通じて、人種や宗教文化の間にある誤解やステレオタイプのイメージを除くことができます。また、台湾がさまざまなエスニック・グループの文化を尊重し、受容していることをアピールできれば「新南向政策」の推進にもつながることでしょう。📍

「絵の中の台北 大稻埕の少年・郭雪湖」 特別展

文 __ 台北市観光伝播局

写真 __ 劉佳雯、羅若礼

台北市政府ビルの西側エントランスへ足を踏み入ると、5メートル近い高さのある1枚の絵が目の前に現れます。これは画家・郭雪湖の名作「南街殷賑」です。現在開催中の「絵の中の台北—大稻埕の少年・郭雪湖」特別展では、数多くの複製作品や関連する歴史を伝える写真、郭雪湖が使用した画材などが展示されています。またマルチメディアデバイスを活用し、みなさんを郭雪湖が描いたあの栄華極まる夢のような大稻埕へと連れていってくれます。



来場者はマルチメディアデバイスで生き生きと動く「昔日西門情景」を体験できます。(写真/羅若礼)



会場には郭雪湖が使った日本画の画材が展示されています。(写真/劉佳雯)



会場にあるマルチメディア画面にタッチすれば「南街殷賑」に隠された秘密を素早く知ることができます。(写真/劉佳雯)

時空を飛び超え 古き良き時代を見る

大稻埕に生まれた郭雪湖は、台湾における美術の発展と人材育成に大きく貢献した人物です。今回の特別展は「少年時代の郭雪湖」をテーマにしています。会場で最も目を引くのは、この上なく精緻な筆づかいで色鮮やかに描かれた日本画「南街殷賑」です。この作品はあの世から死者を迎える中元節(旧暦7月15日)で賑わう霞海城隍廟の様子を描いたもので、絵の中の看板、建築物、人物や商品などが当時の大稻埕の繁栄ぶりを生き生きと映し出しています。

今回の展示では、歴史研究家の陳柔縉さんと莊永明さんを招いて「南街殷賑」の解説をしてもらいました。例えば、交差する棒の図柄に「倶楽部」と書かれた店は、実は当時の高級娯楽であったビリヤード場なのだそうです。また「左側通行」という標識からは、かつて台北の人々が左に寄って歩いていたことが分かります。『火燒紅蓮寺』は大稻埕にあった映画館「永楽座」で最も人気を博した映画です。木瓜糖(砂糖をまぶしたドライパイヤ)やバナナ、パイナップルなどの果物は、日本人が台湾と聞いて思い浮かべる南国らしい品々でした。さらに絵に描かれた老舗の数々は現在も営業しています。ほかにどんな秘密が隠

されているか興味があれば、マルチメディア画面にタッチするだけですぐに説明を見ることができます。

また本展では、郭雪湖のもう一つの名作「昔日西門情景」が動き出します。来場者が両手を振ると、絵の中の物売りが天秤棒を担いで西門前のトロッコ線路を越えていったり、線路の両脇で物売りや民衆が賑やかにやりとりする街角の風景を見ることができます。このほか、第2回台湾美術展覧会で特選に選ばれた「円山付近」、芝山岩の風景を描いた「新霽」など15作品の複製が展示されています。

郭雪湖の描いた台北をもっと知りたいなら、ぜひ台北探索館を訪れてみてはいかがでしょうか。📍



「絵の中の台北— 大稻埕の少年・郭雪湖」 特別展

📍 台北探索館特展庁（信義区
市府路1号1、2F）

🕒 展示は2018年2月28日（水）
まで、9：00～17：00
（月曜、国定休日は休館）

☎ 1999 内線 8630

撮影、飲食、ペットを連れての
入場、長い傘やその他危険物の
持ち込みは禁止

台北市観光伝播局は郭雪湖の作品をモチーフにした3種類の記念品を用意しています。「南街股販」トートバッグ（630元）、記念クリアファイル（5枚入り199元）、2018年卓上カレンダー（250元）があります。記念にコレクションしてはいかがでしょうか。

📍 市府出版品記念品販売センター（市政府ビル仁愛路側
エントランス左側）

🕒 月曜～金曜 09:00～17:00
土曜～日曜 11:00～17:00

旅のお役立ち情報

桃園国際空港から台北市までのアクセス

台北市と桃園国際空港の交通手段には、スピーディーな桃園国際空港 MRT、安くて便利な空港バス、安全で快適なタクシー、専門的で質の高い送迎サービスがあります。いずれも所要時間と料金が異なりますので、必要に応じてお選びください。

タクシー

乗り場：第一ターミナルの到着ロビーの北側、第二ターミナルの到着ロビーの南側

片道料金：メーターの料金 × 0.15 + 高速道路料金。
台北市内まで約 NT\$1,100 元

第一ターミナルタクシーサービスセンター
電話：(03)398-2832

第二ターミナルタクシーサービスセンター
電話：(03)398-3599

空港バス

乗り場：第一ターミナル一階の到着ロビーの南西側、第二ターミナル一階の到着ロビーの北東側

運行会社：国光客運、長栄巴士、建明客運、大有巴士の4社
片道運賃：NT\$85 元～NT\$145 元

所要時間：路線によって約 40 分～60 分 (大有巴士は停車バス停が多いため約 60 分～90 分)

運行間隔：約 15 分～20 分間隔

桃園国際空港 MRT

乗車駅：A12 機場第一航廈駅と A13 機場第二航廈駅
片道料金：NT\$160 元



台北 MRT

営業時間：06:00～24:00 24 時間お客様専用ダイヤル：(02)218-12345



IC トークン
(片道切符)

NT\$20 元～NT\$65 元



MRT 1 デイパス

NT\$150 元



台北 MRT フリーパス
(Taipei Metro Pass)

24 時間パス：NT\$180 元
48 時間パス：NT\$280 元
72 時間パス：NT\$380 元

電子マネーとして、チャージするだけで MRT (都市交通システム) など公共交通機関やコンビニエンスストア、特約商店での小額決済ができます。シェアサイクルの YouBike にも使えます。購入は MRT やコンビニなど取扱店で。



悠遊カード
(EasyCard)



一卡通イーカートン
(iPASS)

「スポット + 交通手段」が一緒になった「無限暢遊卡」と交通手段だけの「交通暢遊卡」は、有効期限内に台北市と新北市、基隆市を思う存分遊ぶことができます。



台北基好玩卡 | 無限暢遊版

有効期間は 1 日 / 2 日 / 3 日
NT\$ 1200/1600/1900 元

台北基好玩卡 | 交通暢遊版

有効期間は 1 日 / 2 日 / 3 日 / 5 日 / 猫空ロープウェー 1 日
NT\$ 180/310/440/700/350 元

お知らせ

市のサービスを便利にご利用いただけるよう、台北市では 1999 市民ホットラインを実施しています。市内電話、携帯電話、インターネット電話 (公衆電話は除く) からフリーダイヤル「1999 台北市民ホットライン」をご利用ください。「1999 台北市民ホットライン」は、担当者への電話転送後の通話時間を最長 10 分としています。限りある資源を大切に、通話の際は要点を簡潔にお話下さい。

詳細については 1999 にダイヤルするか台北市研考会のサイト (<http://english.rdec.gov.taipei/>) でご確認ください。



緊急連絡先一覧表

警察 / 110

犯罪、交通事故、そのほか警察の協力が必要な場合に利用

消防 / 119

火災、死傷事故、そのほか緊急救助が必要な場合に利用

婦女子童保護専用ダイヤル / 113 内線 1

家庭内暴力または性的暴力の被害者のための 24 時間緊急支援、法律相談、カウンセリングサービス

もし 110 または 119 に電話して言葉で困った場合は、24 時間サービスホットライン 0800-024-111 に電話してサポートを依頼することも可能です。

生活に役立つ連絡先

機関	電話番号	台北市観光案内所
台北市民ホットライン	1999 (台北市外からは 02-2720-8889)	台北駅トラベルサービスセンター (02)2312-3256 台北市北平西路 3 号 1 階
英語による電話番号案内	106	
国際電話ダイレクトコール カスタマーサービス専用ダイヤル	0800-080-100 内線 9	松山空港トラベルサービスセンター (02)2546-4741 台北市敦化北路 340 之 10 号
時報	117	
天気予報	166	MRT 西門駅トラベルサービスセンター (02)2375-3096 台北市寶慶路 32 之 1 号地下 1 階
道路状況	168	
交通部観光局 トラベル相談ホットライン	0800-011-765 (フリーダイヤル)	MRT 劍潭駅トラベルサービスセンター (02)2883-0313 台北市中山北路五段 65 号
交通部観光局 トラベル苦情専用ダイヤル	0800-211-734 (フリーダイヤル)	MRT 北投駅トラベルサービスセンター (02)2894-6923 台北市光明路 1 号
外国人台湾生活相談ホットライン	0800-024-111	MRT 台北 101/ 世貿駅トラベルサービスセンター (02)2758-6593 台北市信義路五段 20 号地下 1 階
観光局台湾桃園国際空港 トラベルサービスセンター	第一ターミナル (03)398-2194 第二ターミナル (03)398-3341	梅庭トラベルサービスセンター (02)2897-2647 台北市中山路 6 号
国際貿易局	(02)2351-0271	ミラマー・エンターテインメント・パーク トラベルサービスセンター (02)8501-2762 台北市敬業三路 20 号
外貿協会 (TAITRA)	(02)2725-5200	ゴンドラ猫空駅トラベルサービスセンター (02)2937-8563 台北市指南路三段 38 巷 35 号
台湾観光協会	(02)2594-3261	URS44 大稲埕ビジターセンター (02)2559-6802 台北市迪化街一段 44 号
台北市日本工商会	(02)2522-2163	
外交部	(02)2348-2999	MRT 龍山寺駅トラベルサービスセンター (02)2302-5903 台北市西園街一段 153 号地下 1 階
外交部市民サービス専用ダイヤル	(02)2380-5678	
警察ラジオ局	(02)2388-8099	
タクシー呼出サービス 英語専用ダイヤル	0800-055-850 内線 2	
消費者サービス専用ダイヤル	1950	
中央健康保険局相談専用ダイヤル	0800-030-598	
エイズ相談専用ダイヤル	0800-888-995	

以上出典：

外国人在台生活服務 (Information For Foreigners) / 電話：0800-024-111

中華民國交通部観光局 / 電話：(02)2349-1500

※ 下地が茶色の部分は英語ダイヤル



TAIPEI
MARATHON

臺北

馬拉松
2017

夢に向かって走ろう

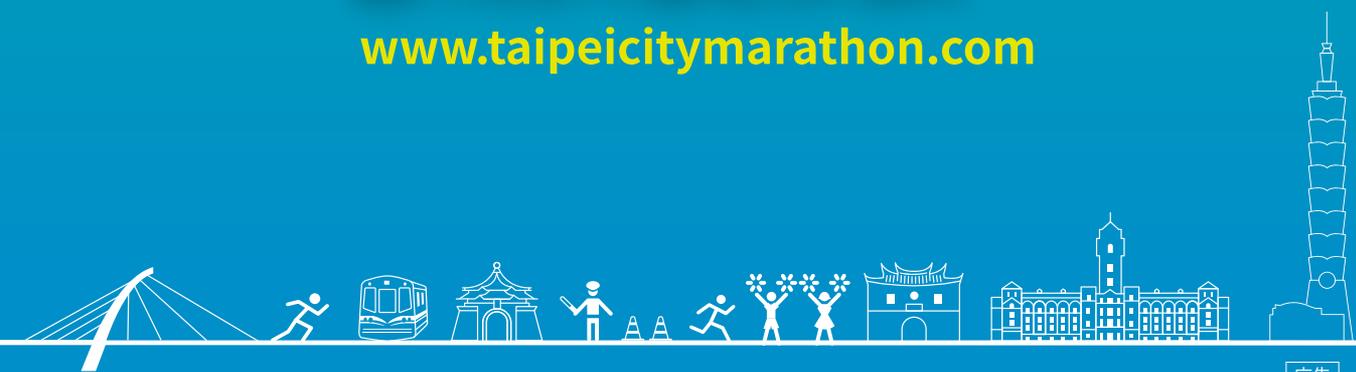
2017 / 12 / 17 **SUN**

—— フルマソン | ハーフマソン ——

間近に迫った2017台北マソン。今年もコースに趣向を凝らしています。

「旧市街をめぐるパレード」をコンセプトに、旧台北城の城門である東門（景福門）、南門（麗正門）、小南門（重熙門）、北門（承恩門）の前を通るコース設計で、マソンを楽しみながら台北の歴史を味わう時空トンネルをくぐり抜けることができます。

www.taipeicitymarathon.com



広告

主催



運営



指導



メインスポンサー



HAPPY
NEW
YEAR



台北カウントダウンイベント

Taipei New Year's Eve
Countdown Party

12.31

07:00^{PM} - 01:00^{AM}

三立都会台チャンネル30で生放送

台北市政府市民広場



詳細は台北旅遊網でチェック www.travel.taipei

主辦單位 /  觀光傳播局  三立電視  協辦單位 /  Vidol  SETN  best 好事989電台

特別感謝 /  台灣大哥大  UB 聯邦銀行  SAMSUNG  中華航空  PRINCESS CRUISES 公主遊輪  DAIKIN